

一〇七 十二月二十七日 (幣原外務大臣ヨリ)
在仏國石井大使宛 (電報)

答札使節ノ内定ニツキ仏國政府ニ申シ入レ方

訓令ノ件

第四二一号

往電第三五九号ニ閔シ答札使ハ山県枢密顧問官ニ内定在本邦仏國大使ヨリ本国政府ニ電報シタル旨ナルモ時宜ニ応シ仏國政府ヘ然ルヘク申入ラレタシ未タ隨員ノ任命ナキモ一行ハ一月二十四日頃横浜出帆ノ仏國船ニテ海防ニ直航ノ旨ナリ右出発期日ハ大体往電第三三五号印度支那總督ノ希望ニ基キ決定シタル次第ナルカ「キルシェー」氏ハ答札使到着迄ニ帰任スヘキヤ承知シ度ク猶又印度支那關稅問題ニ付テハ貴電第四四五号及第五(省略)一八号ノ次第モアル處仏國側ニ於テハ「キルシェー」氏ヲシテ同問題ニ付該地ニテ重テ下協議ヲ為サシムルノ意向アル次第ナリヤ至急貴地當局ニ就キ御確カメノ上電報相成度シ

尚クローデル大使ハ最近印度支那ヲ経テ着任セル參事官ノ報告ニ依リ巴里及印度支那ニ於テ何レモ此ノ際日本ニ対シ何等カノコトヲ為シタキ意向ヲ有スルハ明カナリトテ幾分樂観的口氣ヲ洩シ且我ミッショント印度支那當局トノ間ニリ大使ト印度支那總督トノ間ニ此ノ点ニ付何程意思ノ疏通ニ付テノ協議アルハ寧ロ當然ノ如クニ思考シ居ル様子ナリアヤ明カナラサルモ為念申添フ

一〇八 十二月二十九日 (幣原外務大臣ヨリ)
在仏國石井大使宛 (電報)

答札使節ノ任命發表ニ閔スル件

第四二四号

往電第四二一号ニ閔シ山県枢密顧問使 (Envoyé Spécial) 任命方ニ付キ仏國大使ト協議シタルニ同大使ニ於テハ右ニ付キ別ニ仏國政府又ハ總督ノ回答ヲ俟シニ及ハストノ意見ナリシニ依リ右任命本日發表セリ隨員ハ決定ノ上ニテ電報スヘシ

事項六 日ソ漁業問題

一〇九 一月八日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ

松井外務大臣宛

力ラハン提議ノ漁業林業特權交渉委員本邦派遣ニ閔シソノ利用方意見具申ノ件

機密第四号

大正十三年一月八日

在浦潮

總領事代理 渡辺 理恵 (印)

外務大臣男爵 松井 康四郎殿

「カラハン」提議ノ漁業林業特權交渉委員利用

ニ閔スルノ件

本件ニ閔シテハ客年末日付機密第三一二二号拙信中卑見略述ニ及置候次第有之候處本官ハ該「カラハン」提議ノ内容實質乃至我方ノ御心酬振如何等ニ閔シテハ邦字新聞乃至機密拙信第二七五号同三〇一号及第三〇四号等露側ノ材料以外未タ承知不致候ヘ共新聞等ノ伝フル所ニ拠レハ政府ニ於テ

前記二三ノ疑点ハ有之モ是等ハ我ニ於テ相当ノ対抗手段有之ヘキニ由リ帝国トシテハ寧ロ之ニ依リ我方ニ幾許ノ利益ヲ得ルヤニ想到ヲ要スヘシ而シテ右利益如何ヲ考察スルニ愚見ニ依レハ

(第一) 国交ヲ順調ニ導キ当館ノ立場ヲ有利ニ向ハシムル利益アリ則チ帝國ハ露國ニ對シ何時迄モ鎖國主義ハ固ヨリ現在ノ如キ無條約關係ヲ持続スルヲ不利ナリト前提スルトキハ若シ目下直ニ正式交渉ニ入ルヲ許ササル事情アラハ切メテハ先ツ本委員一行ヲ入国セシメ本提議其ノ他ノ懸案ニ関シ巨細ニ談判シテ相当ノ利權ヲ確保スルト同時ニ該機會ヲ利用シテ当館現時ノ立場ヲ改善シ本官ノ職権特權等ノ恢復ヲ期シ尚時機熟セハ両國正式交渉ニ移ルヘク備フルコト而シテ我方カスル態度ニ出ツレハ曩ニ「レーニン」号事件ニテ憤慨セル露側ノ感情ヲ緩和シ万端好合ニ向フヘキモ若シ之ニ反シ今回モ表面好意的ノ立派ナル本提議ヲ毛嫌ヒシテ謝絶スルカ如キコトニ終ランカ其ノ反応ハ直ニ両国關係ハ固ヨリ差当リ当地方在留帝國官民ニ影響スル所甚大ナルヘシ

(第二) 本年度ノ平和的出漁問題解決ニ絶好ノ機会ナリ既

ニ御知悉ノ如ク日下行詰マリトナレル漁業査定問題ハ累申ノ通り結局露側ヨリ我方ノ対償要求ニ對シ何等明答ヲ与ヘシシテ茲數旬ナラスシテ昨年ノ例ニ倣ヒ既往ノ借区料未納者ノ参加不許可ノ条項付キ競売ノ廣告ヲ為シ以テ我當業者ヲシテ否応ナシニ先方ノ二百七十万円(一応ハ一層不利ノ納金条件ヲ迫マルヘシ)ヲ迫ルニ至ルハ明カナルヲ以テ此際先方カスル手段ニ出テ斯依然速ニ本委員(我方カ容ルレハ「アンドリアノフ」位カ一行ニ加ハリ来ルヤト察セラル)ヲ來京セシメ未決ノ査定問題及本年ノ競売乃至出漁条件等ヲ有利ニ解決スルノ要アリ然ラサレハ漁期愈切迫シテ又々大騒キヲ為シ遂ニ不利ノ条件ニテ屈從ノ已ムナキニ陷入ヘキハ遺憾ナカラ今ヨリ予想セサルヲ得ス

(第三) 漁業ニ關シ從来閉鎖セル漁区ヲ邦人ニ有利貸下ノ新例ヲ開キ經營如何ニ由リテハ我漁民ニ非常ノ利益ヲ与フヘシ即チ露側ノ提供セントスル漁区ハ果シテ何レノ海面ヲ意味スルヤ未詳ナルモ機密往信第四〇一号後段「ブレオブラゼンスキ」及同第二〇〇六号第二「コロボフ」等当局側ノ本官ニ為シタル談話等ニ依リ察スルニ之ハ重モニ協約水面以外ナル從来ノ禁制漁区(本月百四十余区ヲ競売ニ付セ

ントスル彼得大帝湾ノ如ク從来露國臣民ニ限り許シタルモノ)ヲ指スモノノ如ク考ヘラルニ依リ是等漁場ニハ年来邦人カ投資シテ露人名義ニテ買魚ノ形ニ於テ多量ノ漁獲物ヲ輸出シ来レルヲ以テ我方ニ於テ比際購買組合(「コオペラチーブ」)又ハ漁夫組合(「アルテリ」)等露側ノ要望形式ニ適スル如ク労働団体ヲ組織シ之ニ要スル資金ノ如キハ個人ニモ幾多有之ヘキモ若シ已ムナキ場合ハ震災後援会等ヨリ一時貸資スルコト為シ邦人名義ニテ借区經營セシムルコトセハ從来ノ名義料ハ固ヨリ是等付近漁区カ本月競売(追報致スヘシ)ニ付セラルルヲ以テ借区料ハ大体其ノ標準ヨリ七割五分ヲ減スルコト故仮令經營ヲ短期トスルモ実ニ非常ノ有利經營ト謂フヘク況ニヤ之ヲ先例トシテ向後モ經營ヲ繼續シ得ハ協約以外ノ漁業權トシテ莫大ノ利益ヲ獲得スル次第ナリ而シテ是等漁区ト一般協約漁区ノ經營者トノ關係等ハ邦人間ノ協調ト委員一行トノ交渉トニヨリ十分設定スルコトヲ得ヘシ

(第四) 林業ニ關シ本提議ニ依ル利權獲得ト共ニ目下懸案ノ当県長期林業經營問題ノ解決ニ有利ナリ即チ帝國カ元來者當県ノ木材ヲ需要シアリ殊ニ震災後ノ本邦市場ハ一層其ノ

需要ヲ激増セルヲ以テ本件提議ヲ利用シ十分交渉セハ新ナル一種利權ヲ獲得スルヲ得ルト同時ニ昨年未解決ノ儘ニテ當業者カ非常ニ当惑セル長期林区經營問題ノ解決ヲ計ルヲ得ヘク此意味ニ於テモ本委員ノ來京ハ大ニ歓迎スヘキナリト認メラル

之ヲ要スルニ露側這次ノ提議ハ内容条件等不明ノ点アリ一見單ナル好意ノ宣伝ニシテ又其ノ裏面ニハ何等野心ノ伏在セルヤノ疑アルモ余リニ猜疑ノ眼ヲ以テ之ヲ扱ヒ輕々之ヲ謝絶セハ其ノ結果ハ甚タ面白カラサルハ明カナリ依テ先方ハ表面好意的ニ同情シ有利ノ事項ヲ申込来レルヲ以テ我方トシテハ表面快ク之ヲ容レ先ツ委員一行ヲ迎ヘテ一方万ニ対スル必要ナル取締ヲ怠ルコトナキト同時ニ提議ノ内容等ニ關シ十分討議交渉シテ我ニ得ラル丈ケノ利權ヲ握リ差当リ目下刻々迫リ來レル本年度漁業懸案及林業問題ヲ解決シ同時ニ当方面ノ難境ヲ緩和シ尚進ンテハ一般正式交渉ニモ利用スルヲ帝國ニ取り得策ト思考致候ニ付本件ニ關シテハ固ヨリ業已ニ政府ニ於テ十分御講究済ノ儀ト存シ候ヘ共尚僭越ヲ顧ミス卑見具申ニ及ヒ候 敬具

ヘキニ付右申添候

一一〇 一月十日 酒井露領水産組合長ヨリ
永井通商局長宛

本年度ハ露当局ノ受理如何ヲ考慮セズ漁区開設願
設願ヲ提出シタキトコロ右ニ闇スル当局ノ意

向回示方要望ノ件

発第四号

大正十三年一月十日

露領水産組合組長子爵 酒井 忠亮（印）

外務省通商局長 永井 松三殿

本年度漁区開設願ノ件ニ付テハ客年十一月十七日付受第二

一八号ヲ以テ御配慮方御願致置候次第モ有之候処平年ノ例ニ依レハ露國當局ハ一定期日迄ニ漁区開設希望届ノ提出方ヲ一般ニ告示シ而シテ漁区表ノ編成ナルト共ニ年末年始ノ交ニ於テ之ヲ発表シタルトコロ昨年末ハ前記告示ノアリタルコトモ聞知セサレト恐ラク時期ヨリ看テ既ニ該漁区表ノ編成中ナルヘシト推察セラレ候而シテ最近二年間ハ出漁方針ニ闇スル交渉ノ經緯上遂ニ右開設願ヲ露側ニ提出スルニ至ラサリシ為邦人希望ノ新規漁区ヲ発表セシムル機ナカリ

シノミナラス在来漁区ニシテ閉鎖セラレタルモノモ有之候ニ付本年度ハ出漁方法ニ闇スル交渉ノ推移如何ヲ問ハス且亦露國當局ノ受理不受理ヲ顧慮スルコトナク此際右開設願ヲ露國ニ提出スルハ日露漁業協約ニ基ク漁業権行使上ノ一手段タルヲ失ハサル様認メラレ候ニ付右ニ闇スル御當局ノ

御意向御回示ニ願度此段相伺候也

一一一 一月十五日 松井外務大臣ヨリ
在浦潮渡邊總領事代理宛（電報）

カラハンヨリ在中国芳沢公使ニ申出ノ漁区並

ニ林区提供方ノ内容参考ノタメ通報ノ件

第五号

露西亞側ハ客年十一月五日付「カラハン」ヨリ在支公使宛

公文ヲ以テ大要左ノ通申出タリ

(一)日本震災ニ対スル露國中央救濟委員ノ決議トシテ罹災民ニ対シ(イ)日本海沿岸ノ漁区七十及(ロ)黒龍沿海並勘察加州ニ於ケル總面積五十万「デシャチン」ノ森林ヲ普通価格ノ二十五「ペーセント」ニテ提供ス

(二)右ハ罹災民團体ノ代表者トノ契約ヲ以テ之ヲ許与ス

(三)右提供ニ關シ露國中央救濟委員會代表者ヲ日本ニ派遣シ

材料ヲ提示シ速ニ正式契約ヲ締結セシムルコトトシタシ

(四)右通告ニ對シ日本政府ノ執ラルヘキ措置及中央救濟委員會代表者ノ渡日ニ對シ放券ノ査証ヲ与フヘキ當該日本官憲ヲ指定回報セラレタシ

然ル處日本海沿岸ノ漁区ハ日露漁業協約トノ關係モアリ且又右ノ中二十箇以上ニ就テハ勘察加方面漁区ト共ニ露領水產組合ニ於テ長期漁区トシテ貸下ヲ受クル目的ヲ以テ目下浦潮ニ於テ交渉中ナル關係モアリ又沿海州林区ニ闇シテモ我林業者ニ於テ露國側ト二三交渉中ノモノモアルニヨリ帝國政府ニ於テハ在支公使ニ電訓シテ「カラハン」ニ對シ前記ノ事情ヲ指摘シ露國側ニテ此等事情ヲ考慮ニ加ヘ併カモ猶右ノ提供ヲ為スモノナルニ於テハ我方ハ好意ヲ以テ本件提議ヲ迎ヘ得ヘシト思考スルモノ右ノ關係上我方態度ヲ決定スル材料トシテ先方ノ提供セムトスル漁区及林区ノ場所ニ付成ルヘク詳細ニ承知シタキ旨申入レシメタル処「カラハン」ハ同月二十日在支公使ト面会ノ際今回提議ニ係ル漁区並林区ハ右等既得権及懸案中ノモノニ何等影響スルモノニアリスト述ヘ尚日露漁業協約トノ關係如何トノ問ニ對シ

「カラハン」ハ現露國ノ闇スル限り日露漁業協約ナルモノニ付本年度ハ出漁方法ニ闇スル交渉ノ推移如何ヲ問ハス且亦露國當局ノ受理不受理ヲ顧慮スルコトナク此際右開設願ヲ露國ニ提出スルハ日露漁業協約ニ基ク漁業権行使上ノ一手段タルヲ失ハサル様認メラレ候ニ付右ニ闇スル御當局ノ

ハ存在セス本件払下ハ全然露國ノ新法ニ準拠シテ行フモノニテ日本政府モ右法律ニ基キ行ハレタル漁区競売ニ日本人ノ參加ヲ認メ暗ニ同法ヲ承認セラレタル形ナリ何ノ途本件

払下ト日露漁業協約トハ何等相関スル所ナシト思考スルニ露國側申出ハ全然好意ニ出スルノミナラス漁区及林区共ニ広大ナル範囲ニ涉ルモノニテ日本人既得ノ権利ト何等抵触スル理由ナキヲ以テ日本政府ニ於テ我方同様ノ精神ヲ以テ之ヲ迎ヘラレタシト述ヘタル趣ナリ

本件経過大体右ノ如ク我方ニ於テ露國側申出ヲ應諾スヘキヤ否ヤニ就テハ本邦當業者ノ意見ヲモ徵シ目下研究中ナル

カ貴官参考迄ニ右申進ス

一一二 一月二十一日（着） 在浦潮渡邊總領事代理ヨリ

伊集院外務大臣宛

大正十三年度漁業方針ニ闇スル露國關係係官

ノ意向等ニツキ報告ノ件

機密第三〇一号 （大正十三年一月二十一日接受）

大正十二年十二月十四日

在浦潮斯德

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

来年度漁業ニ関スル件

労農露国糧食省及漁業本部ハ曩ニ在当地極東漁業庁官制ヲ改革シ同庁内ニ國家漁業經營部ヲ新設シ漁業國營ノ一步ヲ試ミントセル処本官ハ露側カ目下漁業査定問題ノ停頓対策トシテ漁業協約水域漁区ノ内河川漁区トノ関係ニ鑑ミ露國國營上有益ナル漁区（「ウスチ、カムチャツカ」ノ如キ）ハ之ヲ來年度ニ於テ閉鎖スルヤノ虞有之其成ルヘク速ニ外国人参加未納稅者參加拒否等本年度ノ例ニ依ル一般漁区貸下ヲ公告シ我レニ庄迫ヲ加ヘテ査定交渉ヲ促進セシムルカ如キ手段ニ出テサルヤヲ懸念シタルニ依リ是等ノ計画ニ関シテハ爾來周到ノ注意ヲ払ヒ來リタル處本月十三日付号外拙信報告ノ当地付近水下漁区競売ニ関スル情報アリタルニ依リ十四日本官ハ漁業全權代理「プレオブレゼンスキー」ヲ往訪シ先ツ該記事全般ノ確否ヲ聞キ其確報ナルヲ確メタル後是等「沿岸漁区」トハ一般協約水域ノ漁区ニ係ルモノナルヤヲ聞キタル處這ハ彼得大帝湾ノミニ係ル旨及該記事後段ノ國營漁区ニ關シテモ同湾内ヲ指スモノナルモ其他ノ

リ一ハ我力權災労働階級ニ対スル同情宣伝ト同時ニ我力露

領水產組合員ニ一ノ刺戟ヲ与フルモノニシテ会々前記十三日付拙信報告ノ新聞報モ亦如何ニ來年度漁区貸下料ノ高率ナルカ鮮人労働組合ニ特典ヲ与ヘアルカ乃至ハ國營漁区除外滯納漁業者ニ対スル制裁等ヲ講シアルカラ併セ宣伝セルモノト認メラル我力漁業交渉上注意ニ值スルモノアリト感セラルニ付右御参考迄ニ報告申進候 敬具

（一月二十九日 在浦潮渡邊總領事代理ヨリ

松井外務大臣宛

査定問題ニ關スル件

二二三 一月二十九日
査定問題ニ關スル件
結スルノ得策ニツキ新訓令乃至委員ノ派遣至
急詮議方要望ノ件

機密第一九号

大正十三年一月二十九日

在浦潮斯德

総領事代理 領事 渡辺 理恵（印）

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

一般漁区ニ於テモ國家經營ノ必要ヲ認ムル漁区ハ來年度ハ

閉鎖スルコトアルヘキヲ言明シ尚是等協約水面ノ漁区貸下ニ關シテハ目下条件其他ニ付準備中ノ旨談話セリ尚十一月

十七日付機密拙信第二七五号所報ノ露國日本震災救護委員會決議ニ係ル漁業林業ノ特典ニ關シ本官ハ為念其後当県林務部長「レベデフ」及前記「プレオブレゼンスキ」等ニ就キ夫々聞質シタルモ當時中央ヨリ何等通牒無キ旨答ヘ居タルカ此ノ程「カラハン」ヨリ芳沢公使ニ本件正式提議アリタリトノ新聞報アリタルニ依リ右ニ關シ本会見ノ序ニ「プレ」ニ確メタル處此ノ程本件ニ關シ漁区条件其他ニ関シ具体案ヲ提出スヘキ命令中央ヨリアリタルニ依リ日下調査中ニテ一月中ニハ莫斯科ニ到達スル様取急キ中ナルコト及此ノ分ハ一般漁区競売ノ分ヨリ切放チ詮議スル趣内話セリ尚「ハーヴィン」ハ此ノ程会談ノ際本件「カラハン」提議ノ根拠アルコト及「カ」カ妻ヲ帰国センメタルモ当分ハ新聞ノ伝フルカ如キ「リトヴィノフ」ト交代スルカ如キコト無キヲ断言シ居タリ

本件ハ「カラハン」提議ノ事實及内容ヲ確知致ササルモ若シ果シテ漁業ニ關スル特典ヲ提示セリトセハ露側ハ之ニ依ト無キヲ

爾來行詰リト相成居候査定問題ニ關スル露側ノ態度ニ關シテハ山口領事及本官ヨリ累次報告ノ通先方ハ我提案ニ対シ何等回答ヲ与ヘス飽迄我方カ義務ヲ承認セハ将来ノ問題ハ既ニ与ヘ居ル保障範囲ニ於テ相當可能ナラシムヘキコトニ応スヘキモ是レ未納借区料ヲ先決トスルモノニシテ其ノ内漁期ノ切迫ト共ニ露側獨得ノ漁区競賣廣告ニ依リ最後ノ我方ノ屈服ヲ強ヒントスル態度ヲ執リアル次第ハ御承知ノ通リニ有之右先方ノ態度ハ Preobrazenski カ其ノ後我査定委員付長尾通訳及本官ニ対シ談話シテ居ル処ニ依リ愈々確實ニシテ目下ノ形勢ニテハ本件ハ結局「アンドリヤノフ」帰浦（既報ノ通り二月四五日頃）スルモ容易ニ解決スルコト困難ナルヘシト存セラレ候然ルニ一方田中丸ヨリ当地三菱側ニ達シタル内報ニ依レハ當業者及政府ニ於テモ査定問題ニ關シテハ既ニ妥解ノコトニ御内定ノ由ニテ本件好望云々ト有之其ノ真意不明ニ有之候ヘ共若シ我方ニ於テ結果露側ノ要求ヲ御容認相成様ナラハ可成速ニ本件交渉ヲ進メ露側カ漁区競賣廣告ヲ為ササル以前ニ妥解シ置クヲ得策ト相考ヘラレ候本件ニ關シ必要ナル御訓令乃至委員ノ御派

遣方至急御詮議相成且今後不取敢本件交渉ニ要スヘキ本官暗号電報使用方ニ関シテハ本年機密拙信第四号拙案御採用ノ運ヒニ参ラサル場合特ニ此際「カラハン」側ニ御交渉方御講究相煩ハシ度本件ニ関シテハ既ニ御手配済トハ存セラレ候へ共時期モ愈々切迫シ來レル今日其ノ後何等公報ニ接セサル折柄前記私報有之タルニ付右思付ノ儘此段為念申進メ候 敬具

セナル折柄前記私報有之タルニ付右思付ノ儘此段為念申進

メ候 敬具
二一四 二月十二日 鶴見農商務次官ヨリ
松平外務次官宛

大正十三年度出漁問題ニ関スル對露交渉方針

ソノ他ニ関スル件

水第一二三八号 (一月十三日接受)

大正十三年二月十二日

農商務次官 鶴見 左右雄(印)

外務次官 松平 恒雄殿

大正十三年度露領沿岸ニ於ケル本邦人ノ出漁方針ニ關シテハ我漁業權ノ本義ニ鑑ミ將又客年八月以降ノ日露共同委員

トノ關係ハ前記ノ如クニシテ又這次日露予備會議及客年来當業者代表ト露國當局トノ交渉等ノ経過ニ徵スルモ露國ハ我漁業權ニ關シテハ商議ニ入ルノ意図ヲ有スルモノト認メラル就テハ此ノ際速ニ漁業協約ノ改訂ヲ行ヒ我漁業權ヲ確保シ當業者ヲシテ安全ニ出漁セシメ國家の重要な産業ヲ保護スルノ方途ヲ講スルコト致度

第二案

前記第一案カ一般国策上ノ關係若クハ改訂談判ニ要スル時日ノ關係上急速達成ノ不可能ナルニ於テハ別途之カ促進ヲ

図ルト共ニ差当リ本年ノ出漁ニ關シテハ漁期切迫ノ次第モアルヲ以テ昨年ノ例ニ倣ヒ我漁業權ノ本義ニ拠リ實際問題

解決ノ為メ帝国政府ハ左ノ方針ニ依リ露國當局ト交渉ヲ開始シ根本原則決定ノ上組合ヲシテ浦潮政厅ト漁区租借契約ヲ締結セシメ之ニ拠テ出漁セシムルノ方途ヲ採ルコトト致度

甲、露國ニ対スル交渉方針

日露漁業協約ノ改訂問題ニ關スル帝国政府ノ意図ハ客年出漁問題ノ際既ニ申入レタル通ナルカ目下尚ホ右問題ノ解決セサル事態ニ鑑ミ一九二四年ノ日本當業者ノ出漁ハ從来ノ

ニ依ル借区料精算問題ノ成行ノ次第ヲ考量シ當方トシテハ左記方針ニ拠リ之ヲ措置スルコトト致度候条右ニ対スル貴見御回示相煩度此段及照会候也

大正十三年度出漁方針ニ關スル件

第一案 最近露國ノ政情及列國トノ關係ハ「レーニン」氏ノ死後英

国政府ノ同國承認及其ノ他列國ノ對露關係ニ徵スルニ從來ト著シク其ノ趣ヲ異ニセルモノアリ而シテ露國ト帝國トノ

關係ハ極東ニ於ケル漁業問題ニ關シ極メテ密接ナル關係ヲ有スル所大正十一年末極東露領カ勞農政府ノ管下ニ統轄セラルヤ同政府ハ日露漁業協約ノ効力ヲ否認シ専斷的ニ新

漁業規則ヲ制定公布シ同地方ニ於ケル漁業ヲ一般外国人ニ開放セリ右露國側ノ態度ニ對シテハ帝國政府トシテハ極力

漁業協約ノ効力ノ存在ヲ主張シ從テ第三國人ニ對スル漁業ノ開放ニ付嚴重抗議スルトコロアリ而シテ大正十二年度ノ

出漁ニ關シテハ當業者等ノ妥協的商議ニ依リ漁区ノ貸下契約ヲ為シタルモ右ハ元來變態的ノモノニシテ前記露國側ノ

態度ニ照シ毎年斯ノ如キ事態ヲ繰リ返スカ如キハ我漁業權ノ基礎ヲ薄弱ニ陥ラシムル虞アリ而シテ露國ノ政情及列國

括括下クルコト
(イ)漁区租借期間ハ一九二四年ヨリ向フ三個年トスルコト
(ロ)漁区租借料ハ大体一九二三年ニ於ケル例ニ依リ審議セラレタル未納借区料ノ精算ヲ日本當業者ヲシテ完了セシムル実行手段トシテ便宜左ノ要項ニ依リ之ヲ日本當業者ニ包

括括下クルコト
但シ査証事務、漁業用物資ノ輸入、出漁者ノ入國ニ付テハ同年ニ於ケルカ如キ手違ヒナカラシメ其ノ他漁業ノ經營ニ關シ必要ナル事項ニ付テハ從前ノ例ニ拠ルヘキコト
(ハ)漁区貸下条件ハ大体一九二三年ノ例ニ準スルコト
ハ同年ニ於ケルカ如キ手違ヒナカラシメ其ノ他漁業ノ經營ニ關シ必要ナル事項ニ付テハ從前ノ例ニ拠ルヘキコト
査証官ハ東京及函館ニ駐在セシムルコト而シテ其ノ認メラレサル場合ハ適當ノ便宜方法ヲ認ムルモ出漁船ノ露國開港其ノ他数ヶ所ノ特定地点寄港ノ如キ方法ハ之レヲ拒否スルコト

二、一九二三年八月以降日露共同委員ニ依リ審議セラレタル一九二二年以前ノ借区料ノ査定額ハ二百七十五万円ト定メ内百万円ハ既ニ交付済ノ額ヲ以テ之ニ充当シ残額中五十五万円ハ本年ノ出漁契約成立ト同時ニ又百二十万円ハ大正十三年ヨリ向フ三ヶ年分賦ヲ以テ日本当業者代表ヨリ露国当局ニ交付スルコト

三、第一項ニ依リ貸下ケラレタル漁区ノ租借料及第二項ノ年賦分納金ハ毎年十一月一日以後ニ於テ之ヲ日本当業者代表ヨリ露国当局ニ支払フコト

四、第一項ニ依リ包括貸下ヲ受ケタル漁区ニ関シ其ノ租借権ヲ抛棄シ又ハ出漁不能等ニ因リ出漁ヲ為ササル者ハ一定期間前ニ露国当局ニ其ノ旨ヲ届出タル場合ニ限り本年協定セラルヘキ包括借区料中ヨリ当該漁区ノ借区料ヲ減額スルコト

乙、組合員ノ出漁ニ関スル監督方針

一、大正十一年度以前ノ借区料トシテ露国ニ納付スヘキ金額ハ二百七十五万円ト定メ内百万円ハ既ニ交付済ノ額ヲ以テ之レニ充当シ残額中五十五万円ハ組合ノ銀行預託金ノ残額及此際関係組合員ヨリ取立ツヘキ金額ヲ以テ之レニ充当

スコト

二一五 二月十三日 農商務省水産局長（印）
外務省通商局長（印）

未納金査定額ニ関スル件

（一月二十八日接受）

十三水第一三八号

大正十三年二月十三日

農商務省水産局長（印）

通商局長殿

程トシテハ前記両年度ノ出漁ニ関シ政府カ容認シタル範囲ニ於テ定メラレタル借区料総額即チ百六十五万一千六百三十三円九十錢（此ノ金額ハ曩ニ當業者側カ露国当局ニ対シ示シタル金額ト相違セリ右ハ商議ノ懸引ニ依リタルモノト認メラルニ付露国当局ト交渉ノ前一応當業者側ト打合セノ要アリ）ト為シ交渉ヲ進メラルヲ本筋ト思料致候尤モ大正九年以前ノ未納金ニ付テハ最近當業者側ノ商議ニ於テ右ハ露国当局ヨリ返還ヲ受クヘキ大正十二年ノ不当徵収金ト相殺スルコトトナリ居レルモ此等ハ別途ニ精算決定スヘキモノト被認候条右御考量相煩度此段及照会候也

追テ右査定額ニ関スル當方ノ意見ハ本邦當業者側ハ仮令前記露国当局提案ノ査定額ニ一応ハ承認ノ意向ヲ示シタルモノノ多數關係者中ニハ右ニ關スル負担ノ完済ヲ難シトル実情ノ存スルモノアリト認メラレ候ニ付テハ交渉トスル經過如何ニ依リテハ可成當業者ノ負担ヲ合理的ニ輕減シ義務ノ履行ヲ完了セシメ度キ趣旨ニ有之候間御含置相成度申添候也

過ニ微スルモ大正十年及同十一年度ニ於ケルモノニ有之候府ニ於テ之カ交渉ヲ為ストセハ右査定額ニ関スル交渉ノ道条今回右照会中ノ案ノ通當業者側ノ私的商議ニ代リ帝国政府ニ於テ之カ交渉ヲ為ストセハ右査定額ニ関スル交渉ノ道

ン本年ノ出漁契約成立ト同時ニ露国当局ニ交付シ百二十万円ハ大正十三年ヨリ向フ三ヶ年毎年四十万円宛分納トスルコト

二、未納借区料其ノ他所謂連帶負担金ヲ出漁前ニ組合ニ供託セサル者ニ対シテハ出漁ヲ停止スルコト

三、オコシク被害者ニシテ預託金ヲ引当ニシテ債務ヲ負担セル者ハ此ノ際直ニ右金額ヲ返還セシムルコト而シテ其ノ債務ヲ完済スルニ至ル迄ハ出漁ヲ停止セシムルコト但シ他ノ組合員ニ於テ之ヲ代位スル者アラハ之ヲ認ムルコト

四、前記借区料及年賦返還金ノ割当ハ大体大正十二年度ノ例ニ準スルモ公平ニ之ヲ定ムルコト

五、本年漁区ノ貸下ヲ受クル者ノミヲ以テ出漁團体ヲ作ラシメ之レヲシテ出漁規程ヲ作ラシムルコト而シテ右團体ハ組合ノ名ニ於テ出漁行動ヲ為サシムル条件トスルコト

六、出漁團体ニ屬スル者ニシテ連帶負担金ノ債務ノ責ニ任スル者ハ出漁前相当ノ時期ニ於テ連帶負担ノ責ニ任セシメ其ノ各員ノ調印ヲ採り置クコト

七、出漁ニ關スル對内的事項ニ付テハ大正十一年度ノ例ニ準シ農商務省ニ於テ之レカ為メ必要ナル監督上ノ施設ヲ為準シ農商務省ニ於テ之レカ為メ必要ナル監督上ノ施設ヲ為

二一六 二月十三日 松平外務次官ヨリ
鶴見農商務次官宛

本邦人ノ出漁ニ関スル対露交渉ノ進メ方ニツ

ヰ外務省側ノ意見回答ノ件

通監機密第二三号

大正十三年二月十三日

松平外務次官

鶴見農商務次官殿

大正十三年度露領沿岸ニ於ケル本邦人ノ出漁ニ関スル件

本件ニ關シ本月十二日付水第一三八号貴信ヲ以テ御照会ノ趣了承致候然ルニ御来示第一案ノ趣旨ニ付テハ當方ニ於テモ同感ニ有之殊ニ勞農露國糧食省及漁業本部ハ曩ニ在浦潮極東漁業庁官制ノ改正ヲ行ヒ同府内ニ國家漁業經營部ヲ新設シ極東漁業ニ付テモ國營主義採用ノ意図アルヲ示シ居從テ場合ニ依リテハ協約水面ノ漁区中國家經營ノ必要ヲ認ムルモノアラハ之カ閉鎖ヲ宣言スルニ至ル無キヲ保セサルノミナラス漁業労働者ニ付或種ノ制限ヲ付シ或ハ又課税ニ関

金問題解決ニ伴フ事實上ノ便法ニシテ漁業権ニ関スル調整問題即漁業ニ關スル協約問題ニ付テハ別ニ之カ商議ヲ為ス可キモノナルコト(二)右契約締結ノ為メ何等帝国政府カ旧露國政府トノ條約ニ依リ獲得セル権利利益ニ変更ヲ來ス可キニ非サルコト並ニ(三)契約ノ条件ニ付テハ将来日露間ニ漁業ニ關スル協約成立ノ上ハ其ノ条項ニ照シ必要ノ調整ヲ施ス可キモノナルコトノ留保ヲ付シ右當業者締結ノ契約ヲ容認スルモノナル旨ノ通告ヲ發セシムル等ノ措置ヲ講シ以テ将来ノ交渉ニ不利ヲ貽ササラムコトヲ期シ度所存ニ有之候然ルニ御来示第二案ハ先以テ此際帝国領事官ヲシテ同案甲ニ基キ交渉セシムトスル御趣意ト被解候処當方トシテハ

帝國領事ヲシテ主義上ノ問題トシテ叙上ノ措置ヲ執ラシメムトスル關係ヨリスルモ將又漁業協約ニ關スル日露間ノ商議決定スルニ至ル迄ノ便法トシテ少クトモ本年度ノ出漁問題ハ之ヲ實際上ノ案件トシテ解決ヲ期セムトスル方針ノ上ヨリスルモ先以テ我當業者代表ヲシテ交渉ノ衝ニ当ラシムルコト得策ト信シ候右ト同様ノ趣旨ニ依リ數次ノ閣議決定

ニ基キ客年度ニ於テモ原則トシテ主義上ノ案件ニ付テハ帝國領事官ヲシテ又實際上ノ案件ニ付テハ當業者代表ヲシテ國領事官ヲシテ又實際上ノ案件ニ付テハ當業者代表ヲシテルコト得策ト信シ候右ト同様ノ趣旨ニ依リ數次ノ閣議決定

シテモ漁業協約ニ反シタル新賦課ノ主張ヲ為スヤモ難計事情モ有之旁我漁業権ノ関スル限りハ早キニ臨ムテ勞農露國側ト正式商議ヲ開始シ叙上ノ諸点ニ關シテモ漁業協約ノ規定並ニ精神ニ則リ明確ナル協定ヲ遂ケ以テ我既得ノ権利ノ確保ヲ期スルノ得策ナルヲ認メ居候ニ付他ノ諸般ノ關係ヲ考慮シ今後適當ノ機ヲ見テ右商議開始方取運ヒ度意向ニ有之候得共本年度出漁ニ關シテハ既ニ漁季切迫ノ次第モアリ且御承知ノ通リ露國側ニ於テハ大正十一年度及夫レ以前ノ未納借区料問題ニ關連シ本年度以降參個年間ハ若干技術的の変更ヲ除ク外客年度ニ適用セル条件ニ依リ我當業者ニ漁区租借ヲ認ム可キ旨明示シ居レル關係モ有之候ニ付客年度ニ於ケル例ニ倣ヒ實際問題トシテ我當業者代表ヲシテ御来示第二案甲ノ各項ニ依リ交渉ヲ繼續セシムルコト致度而シテ右交渉ニ對シ帝國領事官ヲシテ必要ノ支援ヲ与ヘシムルハ當然ノ儀ニ有之又右交渉ニ依リ出漁ニ關スル協定成立セハ一面ニ於テ御来示第二案乙ニ基キ我出漁當業者ヲ監督シ以テ其ノ露國側ニ對シ負担スル義務履行上違算無キヲ期スルト共ニ他面帝國領事官ヲシテ時宜ニ応シ(一)我當業者代表締結ノ漁区租借契約ハ大正十一年度及夫レ以前ノ未納

夫々交渉ノ衝ニ当ラシメタル次第ニ有之候処本年度ニ在リテハ前記ノ如ク露國側ハ大正十一年及夫レ以前ノ未納金問題ニ關連シテ我當業者ノ漁業ヲ認メ居候様ノ次第ナルニ付該問題ニ關スル交渉ノ繼續トシテ實際上ノ漁業經營条件ニ付我當業者代表ヲシテ交渉セシムルコト順序トシテモ好都合ト被認候ニ付テハ右當方意見御考慮ノ上貴見何分ノ儀至急御回示相煩ハシ度此段及照覆候也

二一七 二月二十二日 松平外務次官ヨリ
鶴見農商務次官宛

未納金及ビ出漁契約問題ノ扱イニ關スル意向

照会ノ件

通監機密第一八号

大正十三年二月二十二日

松平外務次官

鶴見農商務次官殿

大正十三年度露領沿岸ニ於ケル本邦人ノ出漁ニ關スル件

ル件

本件ニ關スル本月十二日付水第一三八号貴信ニ對シテハ本月十三日付通監機密第二三号拙信ヲ以テ及回答置候処其ノ

大正十三年二月二十三日

二七二

右未納金問題ニ関スル日露共同委員会山口日本側委員長ヲシテ前顧貴信第二案甲ノ方針ニ基キ同問題並ニ之ニ関連スル本年度出漁問題ニ付露國當局ト交渉ヲ再開セシメ且右交渉ニ便スル為メ當業者側ヨリ顧問ノ資格ヲ以テ二名乃至三名ヲ渡浦セシメ商議決定スルニ於テハ未納金問題ニ付テハ山口委員長並ニ當業者側委員ヲシテ署名セシメ又本年度及向後三年間ノ出漁契約ニ付テハ當業者ヲシテ署名セシムルコトトシ此際可成速ニ右交渉ノ進捗ヲ期スルコト致度付テハ右ニ閲スル貴見為念折返シ御回示相煩ハシ度此段申進候也

二一八 二月二十三日 鶴見農商務次官ヨリ
松平外務次官宛
未納金、漁区租借期間、租借料、漁区貸下条
件ソノ他ニツイテノ農商務省側意向ニ閲スル
件

水第一二二八号

局ニ對シ交渉ヲ開始スル様特別ノ御配意相煩度此段回答旁及照会候也

記

一、第二案甲露國ニ對スル交渉條項

(一)大正十年及同十一年度分対露支払金ノ金額ニ付テハ(イ)

右兩年度ニ於ケル出漁ノ事情ニ鑑ミ帝国政府ニ對スル

日本當業者ノ預託スヘカリシ金額即チ百六十五万一千六百三十三円九十錢ヲ以テ之ニ充当スヘキコトヲ主張

(二)止ムヲ得サル場合ニ於テハ大正十一年以前分対露支払金ノ全部トシテ二百七十五万円ヲ承認スルコト

(イ)場合ニ於テハ掲記金額ノ内百万円ハ既ニ交付済ノ

(ロ)ノ場合ニ於テハ掲記金額ノ内百万円ハ前記同様既ニ交付済ノ額ヲ以テ之ニ充当シ残額五十五万円ハ本年出

漁契約成立ト同時ニ日本當業者ヨリ露國當局ニ之ヲ交付シ又残額百二十万円ハ大正十三年ヨリ向フ三ヶ年毎年四十万円宛毎年十一月一日以後ニ日本當業者代表ヨリ露國當局ニ之ヲ交付スルコト

(二)前記対露支払金ノ交渉ト同時ニ左ノ要領ニ依リ日本當業者ノ希望スル漁区ヲ将来三ヶ年ノ期間ヲ以テ借区契約ヲ締結スルコト

(イ)漁区租借期間ハ一九一四年ヨリ向フ三箇年トスルコト

(ロ)前記三箇年ノ毎年ノ漁区租借料ニ關シテハ一九一三年ニ於ケル百三十五万円カ止ムヲ得サル場合ハ同年ニ於ケル當時ノ事情及同年ノ漁獲不況ニ照シ可成其ノ金額ヲ低下スルコトニカメ止ムヲ得サル場合ハ同年ニ於ケル二百六十八個所百三十万円ノ割合ニ依リ租借漁区數ニ応シテ之ヲ協定スルコト

而シテ大正九年以前ニ於ケル日本當業者ノ未納金ニ關シテハ露國當局ヨリ返還ヲ受クヘキ大正十二年ニ於ケル不当徵取金及過渡公課金ノ金額ヲ以テ精算シ過又ハ不足額ヲ生シタル場合ハ其ノ金額ヲ前記露國當局ニ交付スヘキ金額ニ加ヘ又ハ該金額ヨリ之ヲ減スルコト

外務次官 松平 恒雄殿
農商務次官 鶴見 左右雄（印）

大正十三年度邦人露領出漁方針ニ關シ本月十三日付通監機密第二三号並同月二十二日付通監機密第二八号ヲ以テ御來示ノ趣了承致候就テハ本件交渉方針ニ關シテハ刻下ニ於ケル日露両國ノ關係並ニ露國ト列國トノ關係ニ徵シ帝国政府トシテハ一面他ノ諸般ノ關係ヲモ考慮スルト共ニ義ニ照會置候第一案ニ依ルヲ寧ロ妥當ナラスヤト思料致候得共前記第二三号貴信中ノ御意見ノ次第モ有之候義ニ付差当リ同第二案甲ニ依リ交渉ヲ開始スルコトニ異存無之又右交渉ニ閲シテハ前記第二八号貴信ノ通即チ在浦帝國官憲ヲシテ交渉ノ衝ニ当ラシメラレ當業者ヲ之レカ顧問ニ充テ交渉妥結ノ上ハ右當業者ヲシテ付帶ノ事務執行ノ為メ本邦當業者ノ代表タラシムルコト是亦異存無之候就テハ本件ニ關シ本月十二日付水第二三八号ヲ以テ照会致候方針ニ付其ノ後露領水產組合及當業者ノ実情調査並ニ產業保護上ニ必要ナル關係事項攻究ノ結果左記ノ通り整理ノ要アリト認メラレ候条右ニ付御協議ヲ遂ケ漁期切迫等ノ關係モ有之候間速ニ露國當

リ露國當局ニ納入スルコト

(i) 漁区貸下条件ハ大体一九二三年ノ例ニ準スルコト但シ査証事務、漁業用物資ノ輸入出漁者ノ入国情等ニ付テ

ハ同年ニ於ケルカ如キ手違ナカラシメ其ノ他漁業ノ經營ニ関シ必要ナル事項ニ付テハ從前ノ例ニ拠ルヘキコト

査証官ハ東京及函館ニ駐在セシムルコト而シテ其ノ認メラレサル場合ハ適當ノ便宜方法ヲ認ムルモ出漁船ノ露国開港其ノ他数ヶ所ノ特定地点寄港ノ如キ方法ハ之ヲ拒絶スルコト

(ii) 前記借区契約ニ関シ租借料協定後日本當業者ニ於テ採算不引合又ハ其ノ他ノ原因ニヨリ漁区ノ放棄若ハ経営不能ニ陥リタル者ニシテ一定ノ期日迄ニ其ノ旨露國當局ニ届出タル者ニ対シテハ日本當業者代表ヨリ露國ニ納入スヘキ当該年度ノ借区料中ヨリ当該漁区ノ借区料ヲ減額スルコト

二 第二案乙組合員ノ出漁ニ関スル監督条項

(i) 大正十年及同十一年度分對露支払金ノ金額ニ付テハ

(ii) 右両年度ノ自衛出漁ノ事情ニ照シ政府ニ対スル組合員ノ預託スヘカリシ金額即チ百六十五万一千六百三十

シ又残額百二十万円ニ付テハ大正十三年ヨリ向フ三箇年間毎年四十万円宛毎年十一月一日以後ニ露国當局ニ分納スルコト

(i) 前項(i)及(ii)ノ關係組合員ノ預託未済金額ノ取立不能ニ因リ生スル不足金額及同上(ii)ノ三箇年ノ分納金額ニ付テハ本方針ニ基キ出漁ノ意思ヲ決定シタル者ニ於テ連帶分担スルコト

前記分担金ニ付テハ前年ノ漁獲数量並漁獲物及製品ノ種類ヲ按照シテ一定ノ比率ヲ定メ公平ニ之ヲ按分割当ツヘキコト

(iii) 「オコツク」被害者ニシテ預託金ヲ引当ニシテ債務ヲ負担セル者ハ此際其ノ一部分タリトモ可成返還セシムルコトニ力メシメ其ノ返還額ハ前記本年ノ對露支払金

ニ充當スルコトトシ其債務ヲ完済セサル者ニ対スル制裁ハ今暫ク之ヲ差控ヘ今後ノ経過ニ徴シテ適當ノ措置ヲ採ルコト

前記債務ノ未済ニ因リテ生スル不足ノ金額ニ付テハ一時組合銀行預託金ノ利子及組合ノ特別準備積立金ヲ割キ之ニ充當スルコト

三円九十銭ヲ以テ之ニ充當スヘキコトヲ主張シ

(iv) 止ムヲ得サル場合ニ於テハ大正十一年以前分對露支払金ノ全部トシテ二百七十五万円ヲ承認スルコト

(v) ノ場合ニ於テハ掲記金額ノ内百万円ハ既ニ交付済ノ額ヲ以テ之ニ充當シ残額六十五万一千六百三十三円九十銭ニ付テハ組合ノ銀行預託金ノ残額及關係組合員ノ預託未済額並「オコツク」被害者ノ返還スヘキ金額ヲ取立テ之ニ充當シ本年ノ出漁契約成立ト同時ニ露国當局ニ交付スルコト

而シテ大正九年以前ニ於ケル未納金ニ關シテハ露国當局ヨリ返還ヲ受クヘキ大正十二年ニ於ケル不当徵収金及過渡公課金ノ金額ヲ以テ精算シ過又ハ不足額ヲ生シタル場合ハ其金額ヲ前記露国當局ニ交付スヘキ金額ニ加ヘ又ハ該金額ヨリ之ヲ減スルコト

(vi) ノ場合ニ於テハ掲記金額ノ内百万円ハ前記同様既ニ交付済ノ額ヲ以テ之ニ充當シ残額五十五万円ニ付テハ組合ノ銀行預託金ノ残額及關係組合員ノ預託未済額並「オコツク」被害者ノ返還スヘキ金額ヲ取立テ之ニ充當シ本年ノ出漁契約成立ト同時ニ露国當局ニ之ヲ交付

(vii) 對露支払金ノ交渉ト同時ニ左ノ要領ニ依リ本邦當業者

ノ希望スル漁区ヲ将来三箇年ノ期間ヲ以テ借区契約ヲ締結スルコト

(i) 漁区租借期間ハ大正十三年ヨリ向フ三箇年トスルコト

(ii) 前記三箇年ノ毎年ノ漁区租借料ニ關シテハ一九二三年ニ於ケル百三十万円カ止ムヲ得ス協定スルニ至レル當時ノ事情及同年ノ漁獲不況ニ照シ可成其ノ金額ヲ低下スルコトニ力メ止ムヲ得サル場合ハ同年ニ於ケル二百六十八個所百三十万円ノ割ニ依リ租借漁区數ニ応シテ之ヲ協定スルコト

前記借区料ハ毎年十一月一日以後ニ露国當局ニ納入スルコト

(iv) 前項ノ徵收ニ対シ義務ノ履行ヲ為ササル者ニ対シテハ三箇年ニ於ケル毎年ノ借区料ハ出漁前ニ之ヲ徵收スルコト

(v) 四ノ借区契約ニ關シ租借料協定後採算不引合又ハ其ノ前記ノ徵收ニ対シ義務ノ履行ヲ為ササル者ニ対シテハ

六 日ソ漁業問題 二一九

他ノ原因ニヨリ漁区ノ放棄若クハ經營不能ニ陥リタル者ニシテ一定ノ期日迄ニ其ノ旨露國当局ニ届出タル者ニ對シテハ露國ニ納入スヘキ當該年度ノ借区料中ヨリ

当該漁区ノ借区料ヲ減額スルコト

(4) 大正十三年度以降漁区ノ租借ヲ為ス者ノミヲ以テ出漁

团体ヲ作ラシメ之ヲシテ出漁規程ヲ作ラシムルコト而

シテ右团体ハ組合ノ名ニ於テ出漁行動ヲ為サシムル条

件トスルコト

(5) 前記出漁团体ニ属スル者ニシテ連帶分担ノ債務ノ責ニ

任スル者ハ出漁前相当ノ時期（例ヘハ本方針ニ基キ出

漁ノ意思ヲ決定シタルトキ）ニ於テ連帶分担ノ責ニ任

セシメ其ノ各員ノ調印ヲ採リ置クコト

(6) 前記各項ノ事務ノ実行ニ付テハ組合ハ予メ政府ノ承認

ヲ受クヘキコト

(7) 出漁ニ関スル対内的事項ニ付テハ大正十一年度ノ例ニ

準シ農商務省ニ於テ之カ為メ必要ナル監督上ノ施設ヲ

為スコト

編註 二月十二日付農商務次官來信ト二月二十三日付本信ト

番号同一デアルガソノ儘トスル

第五六号

山口第二号

一一九 二月二十六日 在浦潮渡邊總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

漁区表、競売日、借区ノ原則等ニ關シ露紙報

道ノ件

第五六号

山口第二号

二十六日「クラースノエ、ズナーミヤー」紙ニ極東漁業ニ
關シ「アンドリアーノフ」氏談トシテ詳細ナル記事ヲ掲ケ
タルカ其中我當業者ニ關係アル重要諸点ヲ摘記スレハ左ノ
如シ

(1) 漁区表ハ漁業者ノ申請ニ基カス单独ニ之ヲ調製ス

(2) 競売ハ三月十五日執行ス

(3) 借区ノ原則左ノ如シ

魚類滅尽防止ノ措置、各漁区ニ於ケル漁獲高ノ規定、製魚

ノ規定、各種魚類ヨリ締溝製造ノ禁止、借区料ノ半額ニ当
ル保証金ヲ必ス納入ノコト、借区料ノ半額ハ契約締結ノ際

ニ他ノ半額ハ七月迄ニ支払フコト、借区期間ハ一年トシ必
要ノ場合ニ限り長期トス

(4) 河川、入江、黒龍海湾、「ピーター」大帝湾ヲ除キ極東

領水ノ漁業ニ外国人ノ參加ヲ希望ス、日本漁業者ノ參加ハ
旧負債ノ調節ヲ条件トス

(5) 内外漁場ニ對シ露國労働者増加ノ措置ヲ執リ該措置ニ於
ケル外國労働者ノ最大限度ハ七割五歩黒龍江及同海湾ノ内
水ニ於テハ一割「ピーター」大帝湾及「ポシエット」湾ニ
於テハ二割五歩「オホツク」勘察加方面ノ内水ニ於テハ三
割三分ノ一ヲ超過セサルコト

一一〇 二月二十六日 松平外務次官ヨリ
鶴見農商務次官宛

対露支払金ノ總額ハ二百七十五万円デ決着ヲ

妥当トスベシトノ外務省意見提示ノ件

通監機密第二九号

大正十三年二月二十六日

松平次官

鶴見農商務次官殿

大正十三年度露領沿岸ニ於ケル本邦人ノ出漁ニ
關スル件

本件ニ關スル本月十二日付水第二三八号貴信ニ對シテハ本
月十三日付通監機密第二三号拙信ヲ以テ及回答置候處更ニ

六 日ソ漁業問題 一一〇

當時貴省側トモ御打合ノ上客年十一月二十九日付通監機密第一五五号当省永井通商局長發貴省村上水產局長宛書面ヲ以テ其ノ写全文ヲ送付致置タル通り当省大臣ヨリ在浦潮渡辺總領事代理ヲ通シ山口委員長ニ宛テ訓電シ同委員長ハ右ニ基キ「アンドリアノフ」ノ代理タル「ブレーブラゼンスキー」ニ書面ヲ以テ若干ノ条件ヲ付シ總額二百七十五万円ノ支払ニ応ス可キ旨申入レタル次第アリ（客年十二月四日付通監機密合第八二三号永井通商局長發村上水產局長宛書面参照）又當業者側ニ於テハ代表名ヲ用ヒ旧臘末露国当局ニ対シ若干条件ノ下ニ二百七十五万円三年々賦案ヲ承諾ス可キ旨ノ文書ヲ差入レタル次第モ有之右當業者側ノ措置ハ對内關係トシテハ別問題ナルモ併カモ當業者団体タル組合ニ於テハ之ニ事後承諾ヲ与ヘタル關係モアルニ鑑ミ若シ其ノ露國側ニ対シ負担ス可キ義務ノ履行上違算ナカラシムル為メ相当ノ具体的方案立ツニ於テハ特ニ對外關係ヲ考慮シ監督官序タル政府當局ニ於テモ之ヲ認メ可然儀ト被認而シテ右具体的方案ニ關シ貴省ニ審議方煩ハシタル処頃日漸ク相當ノ考案立チタル趣ニ有之即前記(回)ニ於テ止ムヲ得サル場合ハ二百七十五万円案ヲ承認スルコトト御來示アリタル

（参考） 大正十三年二月二十六日稿
〔編註〕

露領沿岸ニ於ケル漁業問題ニ關スル件

對露諸案件中露領沿岸ニ於ケル本年度本邦當業者ノ漁業經營問題ハ漁季ノ關係上遲クモ三月下旬迄ニハ何等歟解決ノ方途ヲ講スル要アル処元来日露講和條約第十一条ニ基キ明治四十年七月ニ締結セラレタル日露漁業協約ハ其ノ規定上

大正八年九月迄ニ之カ更新又ハ改訂ヲナス可キコトトナリ居レルカ帝国政府ニ於テハ大正八年八月露國「オムスク」政權ト同條約ノ効力持続ニ関スル暫定協定ヲ締結シタルモ同政權倒壊後ノ露國政情ニ鑑ミ未タ同條約ノ更新又ハ改訂ニ付正式商議ヲ開始スルニ至ラスト雖一面ニ於テ大正十二年度漁業經營ノ實際的方面ニ關スル交渉ニ際シ在浦潮帝國領事官ヲシテ勞農露國當局ニ對シ帝國政府ニ於テハ日露漁業協約ノ更新問題ニ關シテハ遲クモ一般通商ニ關スル正式商議開始ノ機會ト同時ニ之カ商議ヲモ開始セラル可キモノナリトノ点ニ於テ露國政府ト同意見ナル旨文書ヲ以テ申入レシメタルニ露國側ハ同國政府トシテハ漁業問題ヲ決定的形式ニ於テ調整スルハ日本トノ一般的條約關係設定ト同時ニ行ハル可シトノ日本政府ノ意思ニ同意ナル旨回答シ来るヲ以テ更ニ在浦潮帝國領事官ヲシテ右漁業問題ヲ決定的形式ニ於テ調整スルトハ千九百七年ノ日露漁業協約ノ規定ニシテ日露兩國漁業者ノ不便トシタル鮎ハ水產物保護ノ目的ニ反セサル限り之ヲ削除シ且日露漁業者ノ有利トナル可キ条項及魚族保護ヲ一層有効ナラシム可キ条項ヲ加フルコトノ趣旨ヲ以テ日露兩國間ニ漁業ニ關スル協約ヲ締結スル

モ之カ為メト了解致居候如此經緯アルノミナラス仮リニ今露國側ニ對シ御來示案並ニ貴省係官ノ御主張ノ如ク百六十万余円說ヲ持出スニ於テハ露國側ハ或ハ「アンドリアノフ」提案ヲモ撤回スルニ至ル無キヲ保セサル事情モ有之且時機ノ關係モ有之ニ鑑ミ當省トシテハ此際直ニ前頭(回)ニ依リ交渉ノ進捗ヲ期シ度意向ニ有之而シテ右ニ依リ交渉ヲ進ムル場合果シテ所期ノ目的ヲ達成シ得ルヤ否ヤニ付テハ最近ニ於ケル露國側ノ態度等ニ鑑ミ今ヨリ遽カニ逆睹スルヲ得サルモ當省トシテハ目下ノ事態ニ照シ一日モ速カニ交渉ヲ再開シ度キ意向ニ有之候条右御了承ノ上至急何分ノ儀御回示相煩ハシ度尚本信ノ趣旨ニ付テハ當省係官ヨリ貴省係官ニ對シロ頭ヲ以テ篤ト申入レ済ナル由ナルモ特ニ御申越ニ從ヒ茲ニ當省意見概要申進候次第ニ有之右為念申添候也

右商議開始方取運ヒ度意向ヲ有スト雖右協定ハ幾多技術的難件ヲ解決スルヲ要スルヲ以テ仮リニ右商議ヲ開始スルモノ

相當時日ヲ費スニ非ラサレハ交渉妥結ノ望ナク併カモ既ニ本年度出漁ニ関シテハ漁季切迫ノ関係モアリ且露國側ニ於テハ後ニ述フルカ如ク大正十一年度及夫レ以前ノ未納借区料問題ニ関連シ本年度以降三個年間ハ若干技術的変更ヲ除クノ外客年度ニ適用セル条件ニ依リ我當業者ニ漁区租借ヲ認ム可キ旨約束シ居レル関係モアルニ付目下右ニ基キ實際上ノ漁業經營問題トシテ解決セムコトヲ期シツツアリ今其ノ成行ニ付左ニ概説ス可シ

抑モ大正十年及同十一年度ニ於ケル我當業者ノ露領沿岸ニ於ケル漁業經營ニ關シテハ當時ノ露國政權者トノ商議成立スルニ至ラサリシヲ以テ帝国政府ハ日露漁業協約ニ依ル既得權擁護ノ趣旨ニ基キ不得止機宜ノ措置トシテ我當業者ノ團体タル露領水產組合カ一定ノ規律ノ下ニ自治的ニ其ノ組合員ヲシテ出漁セシムルコトヲ容認シ漁区使用料等ハ前例ト當時ノ事態トヲ按照シ該組合ヲシテ徵收セシメ特定ノ銀行ニ供託セシムルト共ニ（目下露國側トノ懸案タル未納金問題トハ右漁区使用料等及大正九年度以前ノ未納金ヲ指ス

モノナリ）出漁者ニ封シテハ可能的範囲ニ於テ帝国艦船ヲ以テ保護スルコトトセリ

次テ大正十二年度漁業經營問題ニ付テハ大正十一年十月浦潮ニ於ケル臨時沿黒龍州政府（所謂「メルクーロフ」政權）倒滅ノ結果關係漁場方面モ亦勞農露國政府ノ統轄スルトコロトナリタルヲ以テ勢ヒ同政府ト商議スルヲ要スルコトトナレルカ帝国政府ニ於テハ素ヨリ同政府ヲ承認セルモノニアラサルモ實際上ノ問題トシテ之ト商議ヲ進メ円満ナル了解ヲ遂ケタル上我當業者ヲシテ從業セシムルコトヲ期シ大正十二年一月以来在浦潮帝國領事官並ニ我當業者代表ヲシテ露國當局ト交渉ヲ重ネシメタリ其ノ結果四月一日ニ至リ我當業者ノ經營希望漁区二百六十八個所ニ對シ其ノ經營条件ハ日露漁業協約ノ規定ニ準拠ス可キ諒解ノ下ニ借区料露貨百十五万金留（邦貨約百三十萬円）ニテ總括的借区契約成立シタルニ依リ所定ノ手続ヲ履ミ我當業者ハ出漁スルコトトナレルカ查証問題及課稅問題等ニ關スル大小幾多ノ難件惹起シ幾度カ事態險惡トナリシモ之カ為メ特ニ帝國海軍艦船ヲ増派スルコトモ無ク幸ニ我當業者ヲシテ甚タンキ支障無ク同年度漁業經營ヲ終了セシムルコトヲ得タリ

然ルニ右大正十二年度漁業經營ニ關スル条件トシテ前述ノ大正十年及同十一年度漁区使用料並大正九年度以前ノ未納金ニ付テハ日露共同委員会ニ於テ遅クモ八月十五日迄ニ何等歟ノ協定ヲ為ス可キコトトナリ居タル處右委員會ハ本邦側ヨリ委員トシテ山口領事並ニ田中丸、佐々木両當業者代表参加ノ上漸ク八月二日ニ至リ浦潮ニ於テ其ノ第一回ヲ開キ所定ノ八月十五日迄ニ七回ノ会合ヲ重ねタルモ彼我ノ主張甚シク懸隔セル為メ一時審議停頓ノ止ムナキニ至リタルカ更ニ八月二十三日莫斯科政府ノ訓令ニ基ク露國側委員ノ申出ニ依リ會議ヲ再開セシモ其ノ後本邦ニ於ケル大震災突發シ當業者代表委員一時帰朝セル為該委員會ノ正式審議ハ事實上休止セラレ今日ニ至リ然レトモ此間ニ在浦潮帝國領事官並ニ我委員ヲシテ露國當局ト數次ニ亘リ非公式会談ヲ重ネシメタル結果十一月一日ニ至リ露國側委員長ニシテ極東外交全權タル「アンドリヤノフ」ヨリ我委員宛公文書ヲ以テ大正十年及十一年度漁区使用料總額ヲ金二百七十万円トシ（内百万円ハ交付済）五十五万円ハ協定成立ト同時ニ又残額百二十万円ハ毎年四十万円宛三年々賦払トスルト共ニ我當業者ニ本年度ト略同様ノ条件ヲ以テ三個年ノ

長期漁区租借ヲ認ム可キ旨ノ提案ヲ為サシメ得タリ右ハ露國側カ当初七百五十万円ヲ要求シ次テ八月十五日ノ會議ニ於テ我當業者ノ自治出漁ニ依リ露國國家ノ被リタル損害及規則違反ニ對スル罰金等ニ關スル主張ヲ撤回ン且其ノ他二三ノ点ニ付讓歩シタル上尚約五百万円ヲ要求シ我方カ右金額ノ交付方ヲ承諾セサルニ於テハ契約条件不履行ト見做シ莫斯科政府ノ決裁ヲ俟テ本年度漁区契約全部ノ解除ヲanas可キ旨主張セル如キ態度ニ顧ミル時ハ非常ノ讓歩ヲ為セルモノト認メラル

而シテ元來大正十年及十一年度及夫レ以前ノ漁区使用料總額ヲ二百七十五万円ト定ムルコトハ兩年度ニ於ケル我當業者ノ經營漁区数及其ノ収獲高等ニ照シ敢テ過当ニ非ラサルモノト認メラレ又之カ支払ヲ相當期間ノ年賦ニ依リ且年賦期間ニ亘リ長期漁区租借契約ヲ締結スルカ又ハ少クトモ該期間ニ亘リ長期漁区租借契約ヲ締結スルカ又ハ少クトモ該期間ニ亘リ我當業者ノ從業ヲ確保スル方法ニ付相当ノ協定成立スルニ於テハ大体該案ノ趣旨ニ依リ未納金問題ノ解決ヲ期スルコト諸般ノ關係上得策ト認メラルト共ニ之ニ依リ少クトモ本年度漁業經營問題ヲ解決シ得ル次第ナルニ鑑ミ二三ノ階段ヲ經タル上我當業者側ニ於テハ若干条件ヲ付

シ右「ア」ノ提案ニ同意ス可キ旨客年十二月二十四日露國当局ヘ申入レタリ
然ルニ政府當局トシテハ我當業者力前記ノ如キ提案ニ同意スルモノトセハ其ノ露國側ニ對シ負担ス可キ義務履行上違算ナキヲ期スルヲ要スルハ云フ迄モナキトコロナルニ依リ過般來之カ具体的計算等ニ付審議ヲ重ネタルカ頃日漸ク所要金額調達方法將來ニ於ケル組合員ノ分担ス可キ金額ノ配分並ニ之力責任負担方法ニ關シ相當確實ナル具体案ヲ得タルニ依リ右ニ基キ一面所謂未納金問題ノ解決ヲ計ルト共ニ之ニ関連シ本年度及以降三箇年ノ漁業經營問題ノ解決ヲ期スルコトトシ前記山口委員長（目下在浦中）ヲシテ交渉ノ衝ニ当ラシメ當業者側ヨリ顧問ノ資格ヲ以テ二名乃至三名ヲ最近ノ船便ヲ以テ渡浦セシメ所期ノ目的達成ニ努メシムルコトトナレリ

最近ニ於ケル露國側ノ態度ニ顧ミ右交渉ノ結果ハ今遽ニ逆睹スルヲ得サルモ我方トシテハ前記「アンドリアノフ」

（極東漁業厅全權兼極東外國貿易厅全權）ノ公文書ニ拠ル提案ニ基キ所謂未納金問題ヲ解決スルト共ニ之ニ関連シ一

部未納金ノ年賦払期間ニ於ケル實際上ノ漁業經營問題ニ付

解決ヲ期スル為メ最善ノ努力ヲ尽シ度キ意向ナリ而シテ右

交渉ニ依リ出漁ニ関スル協定成立セハ時宜ニ応シ（）我當業者代表締結ノ漁区租借契約ハ大正十一年度及夫レ以前ノ未納金問題解決ニ伴フ事實上ノ便法ニシテ漁業權ニ関スル調整問題即漁業ニ関スル協約問題ニ付テハ別ニ之カ商議ヲ為ス可キモノナルコト（）右契約締結ノ為メ何等帝國政府カ旧露國政府トノ條約ニ依リ獲得セル権利々益ニ変更ヲ可キニ非サルコト並ニ（）契約ノ条件ニ付テハ将来日露間ニ漁業ニ関スル協約成立ノ上ハ其ノ条項ニ照シ必要ノ調整ヲ施ス可キモノナルコト等ノ留保ヲ付シ右當業者締結ノ契約ヲ容認スルモノナル旨ノ通告ヲ發スル等ノ措置ヲ講シ以テ将来ノ交渉ニ不利ヲ貽ササラムコトヲ期ス可ク又露國側ノ態度如何ニ依リテハ事態ニ応シ機宜ノ措置ヲ講ス可キハ論ヲ俟タサル処ナリ

終リニ露領沿岸ニ於ケル漁業ノ實際ニ付概説スレハ左ノ如シ

一、漁区数

日露漁業協約ニ依リ露國側カ明治四十一年競売ニ付シタル漁区数ハ三百三十一ヶ所ヲ算シタルカ爾來其数ハ増減常ナ

ラス例之大正三年九十七、大正九年三百十四、同十二年五百三十七ヲ算シタル
右ハ主トシテ競売時租借中ノ長期漁区数及漁業者ノ出願漁区数ノ多少並大正九年来蟹及鱈漁区ノ開設等ニ基因スルモノナリ而シテ日露人租借漁区数亦多少ノ增減アリト雖大体漸増ノ傾向ヲ示シ居レリ即チ邦人ノ租借漁区ハ明治四十年百十九ヲ算シタルニ年々增加シテ明治四十四年二百二十四ニ達シ爾來多少ノ増減アリシモ大正八年二百五十一、同九年三百九十二、同十二年二百四十六ヲ算スルニ至レリ次ニ露国人租借漁区数ハ明治四十一年十四ナリシニ大体ニ於テ逐年增加シ大正八年八十三ヲ算シタルカ其後ハ同国ノ革命ト内乱ノ影響ヲ受ケ漸次減退シ大正十一年五十六大正十二年三十三ニ下レリ

二、漁区租借料

漁区租借料ハ漁業者相互間ノ競争ノ結果漸次騰貴シ明治十一年平均租借料九百十留（日本人租借漁区ノ分）乃至千四百五十三留（露国人租借漁区ノ分）ナリシモノ大正六年ニハ四千二百六十八留（同上）乃至九千五百三十一留ニ達シ（歐州大亂殊ニ露國革命勃發以來露貨漸落シ租借料ヲ一

用スル中漁場數十ヶ所ヲ算スルヲ以テ小漁場ニ於テハ前記平均数以下甚シキ八十名内外ヲ使用スルニ過ギス

四、漁獲高

邦人ノ漁獲高ハ年々ノ豊凶ニ依リ多少ノ増減アリト雖明治四十一年ノ八万石ヲ最少トシ爾來逐年増加シ大正三年来四十万大正九年来五十万台ニ上リ大正十一年ニ於テハ六十六万石ヲ算セリ而シテ其価格モ魚貨ノ騰貴ト共ニ漸次増加セリ即チ明治四十一年約百万円ナリシモノ二三年後ニハ四百萬円ヲ算シ大正七年千万円台ニ上リ大正九年来年々約二千五百万円ヲ唱フ

邦人漁獲高ノ大部分ハ日本式製造方法タル塩引トシ小部分ヲ罐詰ニ製造ス其数量ハ其製造ノ初年タル明治四十三年ノ七百函ヲ最少トシ爾來年々増加シ大正八年ニハ最大数六十五万函ヲ算シタルカ大正十一年ニハ五十四万函ニ減少シタルモ大正十二年来露領近海ニ於ケル工船蟹漁業開始ト共ニ其ノ数量激増シ約四万函ヲ算セリ而シテ鮭鱈罐詰ノ大部分ハ英國ニ蟹罐詰ノ大部分ハ米国ニ輸出セラルル常トス

五、漁業ノ収支

半「ポンド」入罐八「ダース」

参考書類

- 一、日露講和条約第十一條
- 二、「オムスク」政權トノ暫定協定
- 三、「アンドリアノフ」ノ提案

(参考ノ一)

日露講和条約

第十一條

露西亞國ハ日本海、「オコーツク」海及「ベーリング」

松 島 肇

覚 書

日本帝國政府ハ「オムスク」駐在日本外交官ノ八月二十六

日付公文ヲ以テ千九百七年七月二十八日調印ノ日露漁業協

約及付属議定書繼續ニ関スル其ノ意向ヲ露國政府ニ通牒セラレタリ

目下ノ状態ニテハ日本帝国政府ノ提議カ本問題ニ対シ實際

ニ適スル唯一ノ解決方ナリト認ムルニ依リ下名ハ露國政府ノ名ニ於テ前記公文ニ記載ノ見解即チ漁業權ニ關シ兩國間ニ現行ノ漁業協約其ノ付属議定書並一切ノ取極ハ改正漁業

覚 書

千九百七年七月二十八日調印ノ日露漁業協約及同付属議定書ハ本年九月九日ヨリ日露両国相互ノ合意ニ依リ之ヲ更新ス

露領沿岸漁業ニ從事スル邦人ハ大小企業者ヲ合セテ約二百名ヲ算スルトコロ其漁業ニ投資スル固定及流動資金ハ逐年増加シ最近ハ約五千万円ニ達スル見込ニシテ一方漁業者ノ収益ハ前記ノ如ク約二千五百万円ヲ算ス而シテ各企業者ノ収支ヲ観ルニ小企業者ハ漁業ノ豊凶及魚価ノ変動ニヨリ損益常ナラサルモ大企業者特ニ罐詰業ヲ經營セル者ハ年々多大ノ利益ヲ挙ケ居リ少ナキハ数十万大ナルハ数百万円ノ純益ヲ得ツツアリ

六、罐詰業

大正十二年露領ニ於テ經營セル罐詰工場ハ十五個所ヲ算シ又露領近海ニ於テ從業セル蟹工船十五隻ヲ算セリ

備 考

魚類及其製造品計量ノ単位左ノ如シ

一、一石				
鮭	七十尾	鰯	二百尾	
紅鮭	八十尾	鱈ノ助	四十尾	
鱈粕	四十貫			
一、「ポンド」入罐四「ダース」				

協約ノ実行セラル迄常ニ有効ナルモノト看做サルヘキモ
ノナルコトヲ茲ニ確認スルノ光榮ヲ有ス

千九百十九年八月二十六日 「スーキン」

(参考ノ三)

「アンドリヤノフ」ノ提案

正当ニシテ且双方ノ容認シ得ル様日本漁業者ノ未納金問題
ヲ調節シ以テ一般漁業問題ノ調節ノ端緒タラシムコトヲ
切望シ且日本ノ遭遇セル災厄ヲ考量シテ左ノ提案ヲ為スノ
光榮ヲ有ス

- 一、露国側ハ一九二一年及一九二三年間旧協約水域ノ利用
(「エクスプロイテーション」)ニ対シ二百七十五万円
ヲ受領スルコトニ同意ス
- 二、露側ハ第一項ニ掲タル金額ノ支払ヲ左ノ手続ニ依リ三
年間延納スルコトニ同意ス
- (1)百萬円ハ既ニ支払済ト看做ス
- (2)五十五万円ハ日本漁業者ニ於テ本年十一月之ヲ納付ス
(ハ)百二十万円ハ三年間毎年四十万円宛納付ス但日本漁業
者ハ百二十万円ノ金額ヲ約束手形ヲ以テ保証ス
- 三、露国側ハ黒龍江方面ノ利用ニ対スル計算ヲ本委員会ニ

外務次官 松平 恒雄殿

二月二十六日付通監機密第二九号ヲ以テ御申越相成候大正
十三年度露領沿岸ニ於ケル邦人ノ出漁ニ関スル件了承就
テハ同月二十三日付水第二三八号ヲ以テ照会致候対露交渉
条項カ同月十三日付右同号照会掲記ノ分ト異ルモノアルハ
既ニ申進候通其後ニ於ケル露領水産組合及當業者ノ実情調
査並産業上ニ必要ナル關係事項攻究ノ結果前記条項ノ通整
理ノ要アリト認メタルカ為ニ有之即チ大正十年及同十一年
ノ対露支払金ノ總額ニ關スル二百七十五万円ニ付テハ貴見
ノ通り組合側一部ニ於テハ之ヲ応諾スルノ意向ヲ示スモ同
組合ニ於テ先般來開催セル臨時組合會ノ經過ニ徵スルニ右
ハ必シモ關係組合員一同ノ意向ヲ代表セルモノトハ認メ難
モ難色アリ又前記二百七十五万円ノ応諾ハ改良網ノ使用許
可ヲ必須条件トセルモノナリトノ異論ノ生スル等關係者一
同カ果シテ右ノ負担ヲ應諾シ之カ完済ノ義務ヲ履行スルノ
意思ハ實際ノ處未タ確定シ居ラサルノ狀態ニ有之右ハ當省
ニ於テ曩ニ同組合ニ付取調ヘタル當業者ノ漁業經濟狀態ニ
照スモ尤モノ次第ト認メ得ラル處有之候即チ右調査ノ結果

果ニ依レハ對露支払金ヲ仮ニ二百七十五万円トシ本年ノ借
区料ヲ百三十万円トスレハ之ニ基ク當業者ノ負担ハ平均支
出總額ニ対シ一割二分余(最高一割四分余)ニ及ヒ若シ本
年ノ借区料ヲ露國側意向ノ通ニ割ヲ增加スルモノトセハ右
割合ハ一割五分余(最高一割六分余)ニ増加スル計算ト相
成候從テ右ノ如キ負担ノ為ニハ當業者トシテハ極力漁獲ノ
增加ヲ図ルコトヲ要スルヲ以テ濫獲酷漁モ亦辭セサルノ破
目ニ陥リ漁業規則ノ違反ヲ敢テスルニ至ルヘク前記二百七
十五万円ノ応諾ト改良網使用許可トヲ関連セシメントスル
當業者ノ要請モ其ノ一端ヲ示セルモノニシテ又客年ノ漁区
包括契約ニ當リ當業者ハ其ノ租借料ヲ當時ノ事情上已ムヲ
得ス百三十万円ト定メタルモ当年ノ漁獲高ハ予期ニ反シテ
四十万石ヲ下ルノ不成績ヲ示シ又同年九月ノ関東地方ノ震
災ニ因リテハ罐詰約三万函其他少ナカラサル塩魚ヲ滅失シ
更ニ損失ヲ加フルモノアル等當業者トシテハ經濟上多大ナ
ル打擊ヲ被レルヲ以テ過重ナル對露支払金ノ支払ニ対シテ
モ余力ヲ存セサル者多シト認メラレ候右ハ客年對露支払金
ノ査定ニ關スル商議ノ際ニ於テハ未タ予想セサリシ事實ニ
シテ斯ノ如キ場合ニ於テハ當業者ハ露國當局ニ対シ租借料

編註 コノ文書ノ欄外ニ次ノ記入ガアル

「二月廿七日大臣カ根密院ニ於テ次官カ上院茶話会ニ於
テ説明セラル資料トシテ起案セルモノナリ」

(備考、右第四項ニ関シ「アンドリヤノフ」ハ書面ヲ
以テ本項ノ効力ハ三箇年ノ期間ニ亘ルモノト解スル
旨説明シ同時ニ将来ノ「エクスプロイテーション」

ニ関スル問題ハ未納金問題ノ調節後ニ審議セラル可
能キ旨指摘セリ)

二二一 三月一日 鶴見農商務次官ヨリ

松平外務次官宛
水第二三八号

農商務次官 鶴見 左右雄(印)
大正十三年三月一日

其ノ他ノ漁区貸下条件ノ輕減ヲ要請シ得ル取極メ（明治四十一年協定事項第一）ノ存スル次第モ有之候間此ノ点ノミヲ以テスルモ本年ノ交渉ニ付テハ從来ニ於ケル日露共同委員会ノ経過ニ捉ハルル要ナク且右交渉ノ性質ハ同委員会ヲ繼續スルモノニアラサルノ事態ニ鑑ミ政府トシテハ前記當業者側ノ実情並ニ本年ノ交渉ノ性質ニ照シ本件対露支払金ノ金額ニ付テハ可成合理的ニ低減シ當業者ノ負担ヲ輕減シテ斯業ノ健全ナル発達ヲ図リ又其ノ義務ノ履行ヲ確実ナラシムルコトニ努ムルノ要アリト認メ候尚又本件対露支払金額ノ決定ハ将来ニ於ケル漁区租借料ノ先例トモナリ旁々將來ニ於ケル漁業協約ノ改訂其他ノ対露交渉上ニモ累ヲ貽ス虞アリト認メラレ將又既ニ御同意ヲ得タル本年包括貸下ヲ受クヘキ漁区ノ租借料ニ関スル交渉方針トノ振合モ有之客月二十三日付水第二三八号ヲ以テ回答候次第ニ付右事情御参照ノ上事情ノ許ス限り前号(1)案ニ依リ交渉相成様致度此段重而及回答候也

追テ客年末浦潮ニ渡航シタル當業者ヨリ露国當局ニ対シ承諾ノ意向ヲ示シタル本件対露支払金ノ支払ニ関スル約束手形ノ振出シハ二月九日付局第一五九号ヲ以テ水產局段重而及回答候也

長ヨリ貴省通商局長宛回答ノ通露領水產組合トシテハ其ノ性質上實行不能ノ事ト認メラレ候條右御含ノ上可然御措置相成度為念右申添候

二二二 三月一日 在浦潮山口領事宛

未納金、漁区租借期間、租借料、租借条件等
ニ関スル交渉方針ニツキ訓令ノ件
(編註1)

大正十三年三月二日

外務大臣男爵 松井 慶四郎

在浦潮領事 山口 為太郎殿

漁業問題ニ關スル件

本件ニ關シテハ從来ノ經緯モアリ且漁季ノ關係モ有之候ニ付此際至急解決ノ方途ヲ進メ度候処元来本件ニ付テハ早キニ臨ムテ露國側ト正式商議ヲ開始シ漁業協約ノ規定並ニ精神ニ則リ明確ナル協定ヲ遂ケ以テ我既得ノ権利ノ確保ヲ期スルト同時ニ實際ノ漁業經營上起生スルコトアル可キ諸案件ノ解決ヲ容易ナラシムルノ得策ナルハ今更申迄モ無キトコロニ有之從テ過般來右商議開始方ニ付考慮中ニ有之候得

共本年度ノ出漁ニ關シテハ既ニ漁季切迫ノ次第モアリ又所謂未納金問題ヲモ解決スルヲ要ス可キニ付貴官ハ左記各項御含ノ上今回渡浦ノ當業者側派遣員トモ御協力ノ上交渉妥結方最善ノ努力ヲ尽サルル様致度尚客年十一月二十五日發往電第五三九号別電ニテ申進置タル本件交渉方針綱領ハ今日ニ於テモ何等変更無キ次第ナルニ付特ニ其ノ内ノ二、及三ニ付テハ時宜ニ応シ御請訓ノ上必要ノ措置ヲ執ラル様致度此段及訓令候也

記

ハ單ニ組合事務嘱託ナルニ付之ヲ除ク）ハ當業者又ハ當業者団体代表ノ名ニ於テ署名ノコト

二、対露交渉ハ左記条項ニ依ルコト尤モ交渉ノ成行如何ニ依リテハ其事態ニ応シ更ニ訓令ス可キヲ以テ時宜ニ從ヒ請訓アル可キコト

イ、未納金問題ニ付テハ當業者カ特定ノ銀行ニ預託ス可カリシ額即百六十五万一千六百三十三円九十錢ヲ以テ解決ヲ期スルコト主義上妥当ナルノミナラス今仮ニ対露支払金總額ヲ二百七十五万円トシ本年度ノ借區料ヲ

昨年度ノ例ニ依ル百三十万円トスルトキハ之ニ基ク當業者ノ負担ハ平均支出總額ニ對シ一割二分余（最高一割四分余）ニ及フ計算トナリ又昨年度ニ於テ當業者ハ其ノ租借料ヲ當時ノ事情上已ムヲ得ス百三十万円ト定メタルモ同年ノ漁獲高ハ予期ニ反シテ四十万石ヲ下ルノ不成績ヲ示シ且同年九月ノ大震災ニ因リ罐詰約三万函其ノ他少ナカラサル塩魚ヲ滅失シ更ニ損失ヲ加フルモノアル等當業者トシテハ經濟上多大ノ打擊ヲ被レル事務アルヲ以テ対露支払金ハ可成合理的ニ低減シ當業者ノ負担ヲ輕減シテ斯業ノ健全ナル発達ヲ図ルト共ニリ支払ハシム可キ旨約束セラレ又當業者派遣員（稻川氏

其ノ義務ノ履行上違算ナキヲ期セシメサル可カラサルハ当然ナリ

此等ノ点ハ篤ト露国側ニ申入レラレ事情ノ許ス限り前記百六十五万余円案ノ主張ヲ為スコトセラレタシ尤モ斯ノ場合ニ於テハ掲記金額ノ内百万円ハ既ニ交付済ノ額ヲ以テ之ニ充当シ残額六十五万一千六百三十三円九十錢ハ本年出漁契約成立ト同時ニ當業者ヨリ露国当局へ交付スルコトトシ大正九年以前ニ於ケル當業者ノ未納金ニ關シテハ露国当局ヨリ返還ヲ受ク可キ大正十二年度ニ於ケル不当徵収金及過渡公課金ノ金額ヲ以テ精算シ過又ハ不足額ヲ生シタル場合ハ其ノ金額ヲ前記露国当局ニ交付ス可キ金額ニ加ヘ又ハ該金額ヨリ之ヲ減スルコト

ロ、然レ共未納金問題ニ付テハ既ニ御承知ノ如キ成行モアリ且「アンドリヤノフ」提案ニ依ル二百七十五万円案ニ依ル場合當業者カ露国側ニ對シ負担ス可キ義務履行ノ方法即所要金額調達方法将来當業者ノ分担ス可キ金額ノ配分並ニカ責任負担方法ニ關シテモ相當確實ナル具体案ヲ得タルニ付大体「アンドリヤノフ」提案

ハ、未納金問題ニ付テハ大正十一年度及夫レ以前ニ於ケル対露支払金ノ全部トシテ總額二百七十五万円ヲ承認シ内百万円ハ交付済ナルヲ以テ残額百七十五万円ノ内五十五万円ハ本年出漁契約成立ト同時ニ又百二十万円ハ本年ヨリ向三個年毎年四十万円宛毎年十一月一日以後ニ我當業者代表ヨリ露国当局ニ之ヲ交付スルコトニ、前記対露支払金ノ交渉ト同時ニ左ノ要領ニ依リ我當業者ノ希望スル漁区ヲ将来三個年ノ期間ヲ以テ借区契約ヲ締結スルコト

(一)漁区租借期間ハ一九二四年ヨリ向フ三個年トスルコト

(二)前記三個年ノ毎年ノ漁区租借料ニ關シテハ大正十二年度ニ於ケル百三十万円カ止ムヲ得ス協定スルニ至レル當時ノ事情及同年ノ漁獲不況ニ照シ可成其ノ金額ヲ低下スルコトニ努メ止ムヲ得サル場合ハ同年ニ

於ケル二百六十八個所百三十万円ノ割合ニ依リ租借

漁区数ニ応シテ之ヲ協定スルコト

前記借区料ハ毎年十一月一日以後ニ於テ我當業者代表ヨリ露国当局ニ納入スルコト

(三)漁区租借条件ハ大正十二年度ノ例ニ依ルコト但シ査

証事務、漁業用物資ノ輸入出漁者ノ入国——等ニ付

テハ同年ニ於ケルカ如キ手違ナカラシメ其ノ他漁業ノ經營ニ關シ必要ナル事項殊ニ使用労働者ノ制限等ニ付テハ從前ノ例ニ拠ルコト

査証官ハ横浜及函館ニ駐在セシムルコト而シテ其ノ認メラレサル場合ハ適當ノ便宜方法ヲ認ムルモ出漁船ノ露国開港其ノ他數個所ノ特定地點ニ寄港ノ如キ

方法ハ之ヲ拒絕スルコト
四前記借区契約ニ關シ租借料協定後我當業者ニ於テ採算不引合又ハ其ノ他ノ原因ニ依リ漁区ノ放棄若ハ經營不能ニ陥リタル者ニシテ一定ノ期日迄ニ其ノ旨露國當局ニ届出テタル者ニ對シテハ我當業者代表ヨリ露国側ニ納入ス可キ當該年度ノ借区料中ヨリ当該漁区ノ借区料ヲ減額方主張スルコト

託送本信ノ趣旨ハ二月二十三日付水第二三八号鶴見次官発

及三月一日付同前公信ニ基キ農商務側トノ折合ヲ考慮シ起草セルモノ也 通商局監理課トノ記入ガアル

2 『日本外交文書』大正十二年第一冊三四文書参照

二二三 三月二日 松井外務大臣ヨリ
在浦潮領事 在浦潮山口領事宛

査証、関税、漁具、借区料ソノ他ニツキ追加

訓令ノ件

通監普通特別号ノ二

大正十三年三月二日

外務大臣男爵 松井 慶四郎

在浦潮領事 山口 炳太郎殿

漁業問題ニ關スル件

本件ニ關シテハ本日付通監普通特別号ヲ以テ縷々申進候次第有之候處右公信中言及セサリシ客年往電第五四一号第三項「ホ」以下各号ニ關シテハ當時貴官ヨリ「ブレオブラジエンスキ」ニ申入レラレ又當業者ヨリモ同シク要望シタル趣旨ニ由リ先方ヲシテ容認セシムル様當業者側派遺員トモ協力ノ上御交渉相成度尤モ「ト」号漁具ニ關シテハ先方

六 日ソ漁業問題 二二四

二九二

ハ若干ノ条件ヲ付シテ改良網ノ使用ヲ容認スルノ意向アル
ヤニ承知致シ居ルトコロ若シ右条件ニシテ過当ニアラサル

ニ於テハ該条件付ヲ以テ本件解決ヲ遂クルモ差支ナキ見込

ナルニ付右御含ノ上可然御措置相成度尚本年度以降三年間

借区料納付期ニ就テハ当省ニ閑スル限り借区条件等ヲ昨年

ノ例ニ準セシムル以上十一月一日以後トセス昨年度同様ト

スルモ差支ナキ見込ニシテ尚又査証官吏派遣ノ義ニ就テハ

貴地ニ於テ交渉スヘキハ勿論ナルモ既ニ右ニ閑スル事項ニ

付在支芳沢公使ヲシテ「カラハン」ニ交渉セシムル様取計

置キタル次第モ有之候ニ付右ニ御含置相成度将又前記公信

及本信所載漁業問題ニ関スル今次ノ交渉ニ就テハ關係官省

ト協議ノ都合モアルニ付交渉進捗ノ成行ニ付隨時御報告相

成ルト共ニ彼我ノ間ニ協定案成立ノ上ハ重複又ハ長文トナ

ルニ關係無ク其ノ全文ヲ取纏メ貴見並ニ當業者側派遣員ノ

意見ト共ニ御電報相成度左スレハ當方ニ於テハ相當手続ヲ

経テ可成急速詮議方取計フヘク此等ノ諸点ニ閑スル關係ニ

付テハ當業者側派遣員ヨリ委曲貴官へ伝達ノ筈ナルモ右御

含置相成度為念此段申進候也

第六六号

山口第六号

(三月五日接受)

三月四日 Krasnoe Znamya 紙上ニ極東漁業庁長官ノ名ヲ
以テ蟹、鰐及一般魚類漁区競売ニ閑スル廣告ヲ掲ケタルカ
其大要左ノ如シ

蟹漁区競売ハ三月二十五日一般魚類及鰐漁区競売ハ四月一
日施行シ蟹、鰐及一般魚類漁区ハ三年以内ノ期
間ヲ以テ貸下ケ一般魚類漁区ノ經營条件ニ閑シテハ漁撈及
製魚ノ規定ヲ設ク

競売ハ入札法ヲ以テス

連盟共和国ノ國家的産業組合的公共的施設及團体並個人及
外國臣民ハ競売參加者タルコトヲ得ヘシ總テ均等ノ場合ニ
ハ競売上ノ優先權ハ連盟共和国ノ國家的施設企業團体及產
業組合機関ニ与ヘラルヘシ外國競賣參加者中均等ノ場合ニ
ハ連盟共和国ト條約關係ニアル國ノ臣民ハ他ノ外國人ニ對
シ優先權ヲ享有スヘシ極東漁業庁トノ間ニ未納金ニ閑スル

計算書ヲ調節セサリシモノハ競売ニ參加セシメサルヘシ入

札書ノ受付ハ競売当日午前十時ヨリ開始シ同日正午ニ了ル
モノトス入札書ニハ左ノ記載ヲナスヲ要ス

(一)競売參加者ノ宿所氏名(二)漁区名及番号(三)提供借区料額及
保証金額ヲ文字ヲ以テ記載ノコト

入札書ニハ提供借区料ノ半額ニ相当スル保証金又ハ右保証
金ヲ県財政部若ハ國立銀行ニ納付シタルコトヲ證明スル領
收証並左ノ文書ヲ添付スルヲ要ス

(一)競売參加者又ハ其ノ代理人ノ住所ヲ記シタル身分證明書
又ハ公証ヲ受ケタル委任状謄本

(二)競売認可後漁区力競売參加者ノ提供価格ニ依リ及競売ニ
提示セラレタル条件ニ依リ競売參加者ニ競落シ併カモ競売
參加者カ所定ノ期間内ニ契約ノ調印ヲ拒絶スルトキハ國家
ハ保証金ヲ國庫ノ收入トスルカ又ハ契約締結拒絶者ヨリ損
害ヲ要求スルノ権利ヲ有スル旨ノ誓約書

二二五 三月十日 在浦潮渡邊總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

訓令ニ基キ露國側ト全般ニ亘ル交渉開始ニツ

キ報告ノ件

六 日ソ漁業問題 二二五

側ヨリ拘束ヲ受クヘキ筋合ノモノニアラス日本側ノ懸引ニ
於ケル租税手数料其他諸種ノ事項ヲ規定スルニハ何等日本

二九三

就テハ最近数ヶ月間ニ依リ之ヲ知悉スルヲ得タリ既ニ競売期日等ヲ公表シタル折柄最早悠々ト交渉ヲ為シ居ル時機ニアラサレハ今後ハ一切文書ノ往復ヲ為ササルヘキ旨ヲ述へ露国側ノ最後ノ同意点ナリトテ

(一)日本側ハ露国案ノ金額ヲ認メ内五十五万円ハ三月十五日之ヲ支払ヒ同時ニ残額百二十万円ニ対シ手形ヲ交付シ右支払期限ヲ毎年十一月三十日迄トスルコト

(二)露国側ハ日本漁業者ニ対シ漁業經營ヲ許スヘク借区条件ハ若干ノ変更ヲ加フルノ外昨年度ノ例ニ拠ル但借区料ハ昨年度ノ分ニ比シ一割五歩ヲ増加スヘシ

又右変更トハ二月二十九日発命令中掲ケアルモノナリト言明セリ(該命令ニ関シテハ往電第七号参照アリタシ)尚右命令中ニハ(一)借区料ノ外魚族繁殖費トシテ借区料ノ五分ヲ徵収スル事(二)借区料ハ半額ヲ契約調印ノ際ニ他ノ半額ヲ七月一日迄ニ支払フ事(三)競売迄ニ借区料ノ半額ニ当ル保証金ヲ納付スル事ヲ規定スヘシトアリ依テ我方ハ昨年度ニ於テハ五分税ハ借区料中ニ包含シアリタリトテ當時ノ関係書類ヲ示シタル処「ア」ハ右文書ヲ承知シ居ラサリシニ付右ニ

関シ審議ヲ為ス事ト為スヘキモ昨年度ニ於テハ右五分税力ノ意向報告並ニ至急説議方要請ノ件

第七八号 (三月十一日接受)

山口ヨリ

第一二号

十日本官ハ當業者代表及稻川同伴「アンドリアノフ」ト会見シ巨細ノ点ニ付意見ヲ交換シタル処「アンドリアノフ」ノ意見大要左ノ如シ

(一)露国提案ノ数字ヲ以テ二十二年度以前ニ於ケル一切ノ相互計算ヲ解決ス但シ黒龍江方面ニ於ケル分ヲ除ク右ハ他日兩国政府間ニ於テ商議セラルモノナリ

(二)年賦金百二十万円ニ対シテハ當業者代表ノ約束手形ヲ以テ保証シ當業者ノ計算ヲ以テ割引ヲナスヘシ

(三)査証官派遣ノ議ハ外務部ニ於テ審議セラル可キ筋合ノモノニシテ昨年ハ「ヨツフエ」氏日本ニ駐在セシニヨリ同氏ノ下ニ査証委員会ヲ置キタルモ本年ハ露国代表駐在セナルニ付査証官ヲ派遣シ難シ依テ昨年秋取計ヒタル通り極東沿岸七ヶ所ノ地点ニ於テ査証事務等ヲ行ハシムルコトトナリ居レリ尤モ自分ヨリハ問題解決ノ上ハ日本側ノ希望ニ就キ中央政府ニ請訓スヘキモ他面日本側ヨリモ「カラハン」ニ交渉セラレタラハ宜シカル可シ

借区料中ニ包含シアリン結果全部国庫ノ収入トナリ漁業厅ニ於テ何等繁殖ニ関スル施設ヲ為スコトヲ得サリシモ本年度ヨリハ別ニ五分税ヲ徵收シ繁殖費ニ当ツル事ト成リ居リ且日本側ニ於テモ主義ニ於テ五分税賦課ニハ異議ナカルヘキニ付五分税ハ存置スル事トシ其ノ代リニ本年度ノ希望新漁区ニ對スル借区料ニ關シテハ相當讓歩スヘキ旨述ヘタリ我方ヨリハ借区条件ノ巨細ニ關シ篤ト協議シタキ希望ヲ述ヘ明日更ニ會見ヲ重ヌルコトトセリ
叙上ノ如ク露国側カ最後ノ同意点ヲ示シタル以上未納金納期ノ関係モアルニ付此際我方ニ於テ前記露国提案中(一)ヲ承認スルニアラサレハ此上交渉ヲ進ムルコト困難ナリト思考ス今回發布ノ貸下条件中漁獲高制限措置製造禁止及製魚限制ニ關シテハ相当妥協ノ余地アル見込ナリ猶手形ハ組合名義ニテ差支ナキ旨ヲ洩ラセリ右不取敢

二二六 三月十日 在浦潮渡辺総領事代理ヨリ
松井外務大臣宛(電報)
未納金、査証問題、改良網等ニ對スル露國側ノ意向報告並ニ至急説議方要請ノ件

(イ) 漁獲高ノ制限ハ當業者ニ取り寛大ニ其ノ最大限度ヲ定メ
アルニ付當業者ハ安心シテ可ナリ漁獲高制限表ハ調製済ニ
付就テ見ラル可シ
(ロ) 自分ニ於テ搾糟製造ヲ許可スルコト能ハサルモ右ハ莫斯
科ニテノ決定ナルニ依リ根本問題サヘ決定スレハ右許可方
請訓ス可シ多分許可セラルコトト信ス

(ハ) 製魚制限ニ關シテハ日本漁業者全部ノ總漁獲高ノ内三割
ハ罐詰ノ如キ最上等品ヲ二割ハ箱入品ヲ五割ハ普通日本式
塩引ヲ製造スル事ヲ許スヘシ

(カ) 五分税ニ關シテハ審議ヲ為シタルカ日本人ノ支払フヘキ
五分税總額ハ僅ニ六、七万留ニ過キサルニ付納付スルコト
トセラレ度シ

(ク) 日本當業者ニ對スル三年長期漁業ニ關シテハ未納金問題
解決ト同時ニ二月二十九日命令ニ掲タル条件及借区料一割
五分增加ノ点ヲ除キ昨年適用シタル条件ヲ以テ (primeni-
telen k proshlomu godu) 許可スル旨ノ書面ヲ日本側ニ交
付シ四月一日ニハ形式的ニ競売ヲ行フ事トス

(ケ) 日本側ハ三月十五日必ス支払ヲ實行スルヲ要ス然ラサル
場合ニハ露國側力は迄約束シタル事項ハ總テ無効トスヘシ

尙「アンドリヤノフ」ハ日本側ニ對シ露國監視官吏カ漁
場往復ノ途次日本港湾ニ立寄ル時ハ其ノ上陸ヲ許可シ手数
料ヲ免除セラレ度旨希望セリ
叙上ノ如ク年賦金利子査証官派遣借区料値上五分税賦課蟹
漁区長期拒絶等ノ問題ハ當業者ノ苦痛必然ナルヘキモ当方
ニ於テハ此上何等交渉ノ余地ナシト確信シ當業者代表モ同
意見ナルニ付露國側ノ条件ニ就キ三月十五日迄ニ間ニ合フ
様大至急御詮議ノ上何分ノ儀御回訓ヲ請フ
追テ御訓令第一項(イ)ニ關スル我提案ニ對シテハ露國側ハ斷
然拒絕スル旨通知越セリ

一一七 三月十日 農商務省水產局長ヨリ
外務省通商局長宛
十三局第四〇八号

件等ニ關シ露國側ニ抗議方要請ノ件
大正十三年三月十日

(三月十一日接受)

外務省通商局長殿
農商務省水產局長(印)

三月七日付通監普通合第四一二三号及第四一二四号ヲ以テ御送

付相成候本年度露領出漁ニ關スル在浦山口領事發電報ノ件
了承致候就テハ右電報中漁区ノ競売施行ニ關シテハ該競売
ニ日本人以外ノ外国人ノ參加ヲ許シ又漁区國營主義採用ノ
意図ヲ示ス点ハ我漁業権ノ侵害ヲ起生スルノ虞有之右ノ内
外国人ノ參加ノ点ニ付テハ客年ノ出漁交渉ニ際シテモ嚴重
抗議セル次第有之候条前記漁区國營主義採用ノ点ト併セテ

此ノ際ニ於テモ同様抗議相成候様致度尚又漁区ノ競売ニ關
シテハ從来ノ慣例ヲ破リテ漁区開設出願受理ノ手続ヲ行フ
コトナク專断的ニ競売ニ付スヘキ漁区ヲ決定セルカ如キハ
漁業協約ノ規定ヲ無視シタルモノニ有之其他借区条件トシ
テノ漁獲高ノ限定搾糟製造ノ禁止及製魚ノ制限モ是亦漁業
協約ノ規定若ハ其ノ趣旨ニ反スルノミナラス之レカ為メ本
邦當業者ノ實際上ニ於テ蒙ムル打擊甚大ナリト被認候条此
等モ併セテ抗議相成様致度尤モ右等ニ付テハ本月七日付局
第四〇八号ヲ以テ不取敢照會致候次第モ有之既ニ夫々御配
意中トハ存シ候ヘトモ尚一層ノ高配相煩度此段及照会候也

一一八 三月十三日 松平外務次官ヨリ
岡田海軍次官
鶴見農商務次官
西野大蔵次官宛
機密号外
露領漁業問題ニ關スル件
付記 三月十五日總理大臣官邸ニ於ケル漁業問題ニ關ス
ル決定要綱

大正十三年三月十三日

松平外務次官

岡田海軍次官殿
鶴見農商務次官殿
西野大蔵次官殿

露領漁業問題ニ關スル件

本件ニ關シ來ル十四日閣議席上ニ於テ當省大臣ヨリ話頭ニ
上セラル旨ノ處其内容ハ別紙ニ就キ御了知相成度此段申
進候也

閣議稟請案

露領漁業問題ニ關スル件

一、極東露領沿岸ニ於ケル我漁業権問題ニ關シテハ早キニ
臨ムテ露國側ト正式商議ヲ開始シ日露漁業協約ノ規定並

ニ精神ニ則リ明確ナル協定ヲ遂ケ以テ我既得ノ権利ノ確保ヲ期スルト共ニ実際ノ漁業經營上起生スルコトアル可キ諸案件ノ解決ヲ容易ナラシムルノ得策ナルハ論ヲ俟タルニ依リ右商議開始方ニ付考慮スルトコロアリシト雖本年度ニ於ケル我當業者ノ漁業經營ニ関シテハ漁季ノ關係モアリ且露國側ニ於テハ我方カ懸案中ノ大正十一年度及夫レ以前ノ漁区使用料問題ヲ一定条件ノ下ニ解決スルヲ認諾セハ本年度以降三個年間ハ若干技術的変更ヲ除クノ外客年度ト略同様ノ条件ニ依リ我當業者ニ漁区租借ヲ認ム可キ旨文書ヲ以テ約諾シ居タル關係モアリタルニ付本年度ノ出漁問題ハ漁業協約ニ關スル正式商議開始ニ至ル迄ノ便法トシテ之カ解決ヲ期スルコトトシ過般來浦潮ニ於テ山口領事ヲシテ當業者側派遣員ト協力ノ上露國当局ト交渉シ所期ノ目的達成ニ最善ノ努力ヲ尽サシメタリ一、其ノ結果露國側カ最後ノ同意点ナリト固執シ從テ山口領事及當業者側派遣員ニ於テモ此上交渉ノ余地無シト確信ストテ同領事ヨリ電稟シ来レル要綱左ノ如シ

(一)二百七十五万円ヲ以テ大正十一年度及夫レ以前ノ漁区使用料其ノ他一切ノ相互計算ヲ解決ス但シ黒竜江方面

ニ於ケル分ハ他日日露両国政府間ノ商議ニ譲ル右額ノ内百萬円ハ既ニ支払済ナルニ付残額ハ百七十五万円ナル處内五十五万円ハ三月十五日ニ支払フヲ要ス然ラサレハ露國側ハ是迄約束シタル凡テノ事項ヲ取消ス又内百二十万円ニ對シテハ我當業者代表ニ於テ此際本年十一月三十日迄ヲ期日トスル金額四十万円手形、明年十一月三十日迄ヲ期日トスル金額四十万円ノ約束手形、及明後年十一月三十日迄ヲ期日トスル金額四十万円ノ約束手形即合計百二十万円ノ約束手形ヲ以テ支払ヲ保証シ當業者ノ計算ヲ以テ割引ヲナスコトヲ要ス

(二)右(一)ノ各条件ヲ日本側ニ於テ容諾セハ露國側ハ左記ニ從ヒ日本側ニ漁業經營ヲ認諾ス
イ、蟹漁区(参考、昨年度本邦人經營漁区十四個所借ヒ所謂自治出漁ヲ敢行シ政府ノ容認セル率ニ依ル漁区使用料計約三万三千円ニシテ全体ノ約四十分ノ一二相当ス)ヲ除ク外ハ我當業者ノ經營希望漁区ニ付三年間ノ長期漁区租借ヲ認ム但シ其ノ租借料ハ昨年度ノ分(二百六十八個所ニ付百三十万円ナリ)ニ比シ一割五分ヲ増額ス可ク又(一)漁獲高制限(二)搾糟製造限制ヲ要ス

(三)製魚法制限ニ關スル条件ヲ除ク外ハ昨年適用シタル条件ヲ以テ租借ヲ許可スル旨ノ書面ヲ競売期日前ニ日本側ニ交付シ四月一日ニハ單ニ形式的ニ競売ヲ行フ事トス
ロ、前記蟹漁区ニ付テハ長期トナサス一年期間ヲ以テ貸下ヶ三月二十五日一般競売ニ付ス可ク他ノ漁区ニ於ケルカ如キ日本側當業者トノ特別協定ヲナシ難シハ、査証官ヲ日本へ派遣スル件ハ外務部ノ権限ニ屬ス依テ漁業關係當局トシテハ日本側ノ希望ニ從ヒ査証官派日方中央政府ニ請訓ス可キモ他面日本側ヨリモ「カラハン」ニ交渉方希望ス尤モ漁業關係當局トシテハ昨年秋取計ヒタル通り(備考、昨年八月上旬「ヨツフェ」ハ本邦滯在中ノ査証官ト共ニ本邦ヲ引上ケタリ)極東沿岸七個所ノ地点ニ於テ査証事務ヲ行ハシムルコトナシ居レリ
ニ、日本側要望ノ改良網使用問題ハ漁獲高制限ニ關連スルモノナルカ本年ノ実績如何ニ依リ明年度ヨリ許可方詮議ス可シ

三、然ルニ前記二ノ(一)大正十一年以前ノ漁区使用料問題ニ

付テハ從来ノ經緯甚々紛糾シ居レルモ要スルニ我當業者トシテハ大正十年及十一年度ニ於テ帝國政府ノ方針ニ從ヒ所謂自治出漁ヲ敢行シ政府ノ容認セル率ニ依ル漁区使用料ヲ特定ノ銀行ニ供託セリ右當業者ノ供託ス可カリシ額ハ百六十八万余円ニ過キサルモ(内約二十五万円ノ未納金アルモ目下露領水產組合ニ於テ極力徵收中ナリ)客年八月以来交渉ノ結果當業者側ニ於テハ二三条件ノ下ニ遂ニ總額ヲ二百七十五万円(百万円ハ交付済)ト定ムルコトニ同意シ監督官厅ニ於テモ右ヲ以テ事情止ムヲ得ナルモノト認メタルト共ニ當業者ノ右支払義務履行上違算ナキヲ期スル為メ必要ノ措置ヲ講スルコトナシ居タリト雖露國側要望ノ如ク(一)五十五万円ヲ三月十五日迄ニ支払フコトハ何等歟金融上特別ノ方法ヲ講スルニ非サレハ當業者トシテハ困難ナリ(二)百二十万円ニ対スル約束手形ヲ當業者代表又ハ露領水產組合ノ名ニ於テ發行スルニハ今後相當ノ手続ヲ為スカ又ハ監督官厅ニ於テ必要ノ支援ヲ与フルニ非サレハ實行不可能ナリ(ハ)仮リニ右(一)、(二)ヲシテ可能ナラシメ得タリトスルモ百二十万円ノ割引料ヲ當業者ニ於テ負担シ且漁区租借料カ昨年度ノ割合ヨリ約

二割（一割五分ノ外魚族養殖施設費トシテノ五分税加算）増額セラルモノトセハ是亦何等歟金融上ノ援助ヲナスニ非サレハ當業者ノ多クハ到底其負担ニ堪エサル事情ニ在リト認メラル

次ニ前記二ノ(二)三年長期漁区租借ニ付特別協定ヲ為ストノ有利ナルハ論ヲ俟タサルモ其ノ条件中ニハ漁業協約ノ規定ニ反シ又ハ其ノ精神ニ戾ルモノ無キニ非ラサルノミナラス當業者トシテモ甚々苦痛トスルモノアリ

以上ノ事情ニ鑑ミ此際露国側ト協商シテ當業者ヲシテ從業セシメムトセハ政府ニ於テ金融上相当ノ援助ヲナスヲ要ス可キト共ニ将来漁業権ニ関スル正式商議ニ際シ不利ヲ招カサル為メ極力必要ノ措置ヲ講シ置クノ要アリ又露国側トノ交渉ヲ打切ルモノトセハ勢ヒ所謂自治出漁ノ敢行ヲ容認スルノ覺悟アルヲ要ス可シ

四、現下ノ國際關係特ニ對露關係ニ鑑ミ所謂自治出漁ノ如キ挙ニ出ツルノ政策上面白カラサルハ論ヲ要セサル処ニシテ事實上ニ於テモ殆ント実行不可能ト認メラルノミナラス帝国艦船ノ増派、當業者損害ノ救済、露領各地方在住邦人ノ引揚保護等ニ巨額ノ出費ヲ要ス可キヲ以テ帝

國政府トシテハ此際當業者ニ對シ金融上相当ノ支援ヲ与フルコトノ余儀無キ事情アリトスルモ將又漁区貸下条件中一、二漁業協約規定及精神ニ反スルモノアリトスルモノ之ヲ忍ヒ以テ漁業協約ニ関スル正式協定成立ニ至ル迄ノ變態的便法トシテ實際上ノ漁業經營問題ヲ解決シ現地ニ於ケル我當業者ノ實勢力ノ維持ニ努ムルヲ以テ得策ナリト認ム

就テハ左記方針ニ基キ關係官庁協力シ本件交渉ノ妥結ヲ期スルコトト致度シ

一、本年度我當業者ノ漁業經營ハ極力露国当局ト協商ノ上之ヲ行ハシムルコトトナスモ今一応我要事項ノ貫徹ニ努ムルコト

一、大正十一年度以前ニ於ケル漁区使用料問題ノ解決上當業者ニ金融上ノ支援ヲ与フルコト右ニ付テハ最高百二十万円ノ低利資金金融通ヲ為スコトシ當業者代表ヲシテ露國側要求ノ金額ノ支払ヲナサシメ及支払ノ約束ヲナサシムルコト

右ニ付テハ監督官庁當局ニ於テ必要ノ措置ヲ講スルコト

三、露国側ニ対シ左ノ措置ヲ講スルコト

イ、本年我當業者ノ締結スル漁区租借契約及其ノ条件ハ漁業協約ニ関スル正式商議開始ニ至ル迄ノ事實上ノ便法

トシテ當業者ノ取極ムルモノナル趣旨ヲ適当ノ時機及形式ニ於テ通告スルコト從テ之カ為メ何等日本側カ旧露国政府トノ條約ニ依リ獲得セル権利利益ニ変更ヲ來ス可キニ非ラサル旨及条件ニ付テハ将来漁業協約成立ノ上ハ其ノ項ニ照シ必要ノ調整ヲ施ス可キモノナル旨通告スルコト

ロ、當業者締結ノ契約ニ付テハ露国側カ查証官ヲ少クトモ函館ニ暫駐セシムルコトヲ条件トスルモノナル旨適當ノ方法ヲ以テ通告シ露国側ノ諒解ヲ取付クルコトニ努ムルコト

右請閣議決定

編註 右閣議票請案ノ冒頭ニ左ノ記載アリ

「本案ニ付テハ三月十四日ノ閣議ニ於テ外務大臣ヨリ話頭ニ上セラレタル外務、農商務、大藏ノ關係大臣ニ於テ協議スルコトトナリ其結果十五日清浦總理及前記大臣ノ外

關係官会同スルコトトナリ其結果別紙協定書ノ通り決定セリ」

(付記) 三月十五日總理大臣官邸ニ於ケル漁業問題ニ關スル決

定要綱

覚書

露領漁業問題ニ付大正十三年三月十五日午前十時總理大臣官邸ニ於テ總理、外務、農商務、大藏各大臣及海軍次官会同ノ上農商務次官、農商務省水產局長、大藏省理財局長及外務省通商局監理課長ノ夫々与ヘタル説明ヲ参考トシ決定セル要綱左ノ通

一、大正十三年度出漁ニ付テハ絶対ニ自治出漁ノ舉ニ出ツルヲ避クルコト

二、出漁条件ニ付テハ極力日本側ノ要望事項ノ貫徹ニ努ムルコト

三、協商ノ成立ヲ期スル為具体案ニ付審議ノ上必要アル場合ニハ資金上ノ支援ニ付考慮スルコト

(参考ノ一)

アンドリアノフノ開示シタル各項ニ對シ逐条其當否等ヲ攻究スルニ左ノ如シ

(一) 本項但書ニ於テ露国側カ黒龍江方面ニ於ケル借区料其他ニ關スル決済ヲ将来日露両國間ニ於テ商議セラルヘキモ

ノトナシ居ルトコロ右ハ帝国ノ権太占領問題ニ関シ将来日露両国間ニ於テ商議ノ際解決スルコトシテ差支ナカルヘシ

(二) 露国側主張ノ如ク當業者カ百二十万円ノ割引料ヲ負担スル場合其ノ利息ヲ推算スルニ大要左ノ如シ

割引料
一ヶ年九分トシ

割引ノ月日
本年三月十五日トシ

手形期限
毎年十月一日トセハ

大正十三年十一月三十日迄ノ分
二万五千五百円

大正十四年十一月三十日迄ノ分
六万一千五百円

大正十五年十一月三十日迄ノ分
九万七千五百円

十八万四千五百円

計
シムルトセハ當業者ハ船舶ヲ同所へ回航スルヲ要シ其不便及回航ニ要スル費用尠ナカラサルヲ以テ是非共昨年ノ例ニ依リ露国官吏ヲシテ本邦ニ於テ査証事務ヲ行ハシムルヲ必要トスルトコロアンドリアノフノ好意的注意モアルコトナレハ此際浦潮ニ於テ直ニ解決スヘキ必須条件トセス芳沢公使ヲシテ在北京カラハニ交渉セシメ我希望

(三) 露国側主張ノ如ク査証事務ヲ露領沿岸七ヶ所ニ於テ行ハ

(四) 本項借区料返還ノ規定ハ從来逆モ實行シ來リタルモノニシテ不当ナルモノニアラス

(五) 査証料證明手数料等ニ關シ昨年通リニ解決セハ問題トスルヲ要セス

(六) (一) 租稅賦課ニ關シテハ從来漁業ニ關連シ大体二種ノ公課アリ(一)ハ漁業用品ニ對スル輸入稅ニシテ(二)ハ行為漁場財產所得等ニ對スル公課ナリ(一)ニ就テハ漁業協約中免除規定ナカリシモ本邦ヨリ輸入スル漁業用品ハ漁区相互間ニ運搬セラル漁業用品同様一切(輸入地ノ關稅法施行地ナルト否トヲ問ハス)無稅ナリシカ(二)ニ就テハ協約中均等

待遇ヲ約セル結果從来逆モ當業者ハ營業稅ヲ支払ヒタル外所得稅及地方稅ヲ賦課セラレムトシ特ニ所得稅ニ就テ

ハ帝國政府ヨリ再三抗議シタルモ其ノ理由薄弱ナルヲ自認セサルヲ得サリシモノナリ以上ノ經過ヨリ觀ルトキハ今回露国側カ地方稅ヲ免除セムトスルハ露国政府カ企業家ニ對シ誅求苛斂ヲ主義トスル制度ニ鑑ミ協約改訂ノ場合ニ対シ我ニ有利ナル地歩ヲ与ヘタルモノト觀ルコトヲ得ヘク而シテ塩ニ對シ消費稅ヲ課セムトスルハ前顯慣行ニ反シ我既得權ヲ侵害スルモノト見ルヲ得ヘク旁「アンドリアノフ」ハ果シテ實際ニ課稅セラルヘキヤニ就キ調查ヲ為スヲ約シ居ル關係モアルヲ以テ本課稅撤回方ヲ極力希望スルノ必要アルヘク若シ先方カ絶対ニ応セサルニ於テハ本件ハ協約改訂ノ際更ニ協定スルコトヲ留保シテ當業者ヲシテ納付セシムルコト然ルヘシ

(八) 昨年西南区方面ニ於テ發生シタル地方官憲ノ不法行為ヲ今回露国側カ予防セムトスルハ當然ノ義ナリ

(九) 露国側カ漁区ヲ長期貸下ニ付セスシテ本邦當業者トノ特別協定ヲ避ケムトスルハ未納借区料問題解決ノ方法將タ条件トシテ我當業者ニ對シ其ノ希望漁区ヲ総括契約ヲ以

テ三年ノ長期貸下ニ付セシメムトスル我方ノ根本的主張ニ背馳シ延テ右未納金年賦償還ニ對スル資金調達方法ヲ根本的ニ破壞スルモノニシテ又右漁区ヲ一般競売ニ付シテ本邦人以外ノ外国人ノ競売加入ヲモ認メムトスルハ右行為カ漁業協約違反ニアラス(即チ漁業權カ帝國臣民獨占的ノモノニアラス)トスルモ少ナクモ我漁業權ニ対スル侵迫ト觀ルヲ得ヘシ故ニ此際我方トシテハ蟹漁区ヲ其ノ他漁区ト共ニ三年長期漁区ニ編入シ総括契約ヲ以テ邦人ニ貸下タル様露国側ニ極力交渉スルノ要アルモ若シ先方カ応セサルニ於テハ少ナクモ三年間毎年形式的ニ競売ニ付セシメ實際上邦人ニ於テ希望漁区ヲ借受ケ得ル様露国側ヲシテ措置ヲ執ラシムルコトニ浦潮ニ於テ極力交渉シ猶其ノ目的ヲ達セサルニ於テハ北京ニ於テ「カラハン」ニ對シ本件ノ交渉ヲナン可能ノ範囲ニ於テ先方ノ諒解ヲ取付クルコト可然

(十) 漁獲高ノ制限ニ就テハ一面ヨリ觀レハ我漁業權ニ對スル制限ニシテ明ニ漁業協約ノ精神ヲ没却スルカ如シト雖モ他面ヨリ觀レハ協約第九条ノ予想セル魚類ノ保護ニ該当スルモノトモ言フラ得ヘシ而シテ之ヲ實際上ヨリ觀ルト

キハ逐年魚族減少ノ事実ニ顧ミ我當業者ノ採算ノ範囲内ニ於テ若ハ我當業者ノ現行漁業經營方法上甚タシク其ノ利益ヲ害セサル程度ニ於テ漁獲高ヲ制限シ以テ魚族ヲ保護スルコトハ必スシモ不当ノ措置ニアラサルヘク況ンヤ四項ニ於テ記載セルカ如ク我當業者ノ多數ハ改良網使用ノ条件トシテ漁獲高ヲ制限スルコトハ之レヲ已ムヲ得スト認メ居リ又露國側ニ於テモ本年試験ノ上明年ヨリ右条件ノ上ニ改良網使用ヲ許可スルノ方針ナルヲ以テ本項問題ノ要点ハ漁獲高ノ制限ノ程度ニ係ルモノト觀ルヲ得ヘシ故ニ右制限カ苛酷ニ失スルトキハ先方ニ對シ其ノ修正ヲ求メ若シ其ノ成ラサルニ於テハ本年ノ成績ニ基キ明年ニ於テ其ノ修正ヲ為スコトノ諒解ヲ取付クルコト然ルヘシ

(+) 摺糟製造禁止ハ漁業協約付属議定書第十条中鰯及鰯ト共ニ漁網ニ入りタル雜魚ヲ以テ摺糟製造ヲ認メタル規定ニ違反スルノミナラス從来ノ漁区貸下条件ノ認メタル鰯漁期ニ於テ捕獲スル鰯ハ露國當局官吏ノ認ムルカ如ク其ノ性質上食料トシテ価値甚タ乏シク從テ本邦人ハ之ヲ以テ専ラ摺糟ヲ製造シ居リ今之レカ製造ヲ禁止セラルニ於

割内外ニ当レリト雖モ大漁ノ場合ハ遙ニ低下スルモノトス故ニ當業者ハ露國側ノ定メムトスル製魚種類ノ比率ヲ保タシメムトセハ當業者相互間ニ之ニ関スル規約ヲ設クル外予メ罐詰工場ノ増設拡張ヲ計画シ及空罐其他ノ材料ヲ準備セサルヘカラサルトコロコハ到底本年漁期迄ニ間ニ合ハサルノミナラス前述ノ如ク魚貨ノ販路資金等ノ關係上當業者ニ損失及实行不可能ヲ強ユルモノナリ結局當業者ノ多數ハ第十項ノ漁獲高制限以上ニ各自ノ漁獲高ヲ制限スル外ナキニ至ルヘン以上ノ理由ニ因リ一応本項制限撤回ヲ要望シ其ノ成ラサルニ於テハ本件ノ根本的解決ハ漁業協約改訂迄之ヲ留保シ其ノ時マテ暫定的比率トシテ罐詰二割以上箱詰五分以上日本切七割五分以下ニ改定セシムルカ又ハ本件ニ對スル励行ヲ寛大ナラシムル様露國側ヘ交渉スルコト然ルヘシ其ノ成ラサルニ於テハ當業者ノ危險負担ヲ以テ漁区經營ヲ為サシムル外ナカルヘシ

(+) 魚族保護養殖費トシテノ五分税賦課ノ件ハ大正九年發生シタル問題ニシテ當時帝国政府ノ本費用ハ漁業者ノ負担スル借区料ヨリ当然支弁スヘキモノナル理由ノ下ニ之ヲ拒絶シ漁業協約改訂迄本問題ヲ留保スルコトニ浦潮政權

テハ西南区ニ於ケル数ヶ所ノ鰯漁区經營者ハ鰯漁ヲ廢業スルノ已ムナキニ至ルヘキヲ以テ極力本件禁止ノ撤回ヲ主張スルノ要アルヘク（「ア」ノ言ニヨレハ多分許可セラルヘキ見込ナル趣）若シ其ノ成ラサルトキハ本件ノ解決ヲ漁業協約改訂迄留保スルコトニ付先方ノ諒解ヲ取付クルコト然ルヘク將又鰯漁廢業ノ漁業者ニ對シテハ本年突然廢業ノ為メ被ルコトアルヘキ損害ニ付何等カノ方法ヲ以テ相当ノ救濟ヲ為スノ要アルヘシ

(+) 露國側カ日本式製魚ニ制限ヲ加ヘムトスルハ明ニ漁業協約付属議定書第十条ニ違反スルモノナリ仮ニ一步ヲ譲リテ露國側制限案ノ得失及實行能否ヲ觀ルニ製造方法ノ改良ハ夙ニ帝國監督官庁之ヲ獎勵シ當業者ニ於テモ希望スルトコロナリト雖魚貨ノ販路資金及採算等ノ關係上急速其ノ実ヲ挙クル能ハス今其ノ製造方法ノ現状如何ト云フニ漁況ノ豊凶ニヨリ多少ノ相違アリト雖大約罐詰六十万箱此換算石數約十二三万石箱詰約五万石殘余ハ普通ノ塩引トス而シテ其ノ各品ノ總漁獲高ニ對スル割合ハ後者ノ大小ニヨリ差異アルハ當然ニシテ即チ昨年ノ如キ不漁ノ場合ハ罐詰及箱詰ノ總漁獲高ニ對スル割合ハ三割乃至一

ト諒解ヲ遂ケタルモノナリ然ルニ翻テ考察スルニ我方ニ於テ絶対ニ拒絶スルニ於テハ先方ハ漁区最低価格ニ之ヲ含マシムルノ可能性アルヲ以テ實際本件拒絶ノ無意義ナルニ想到スルトキハ大正九年ノ例ノ如ク協約改訂ノ際根本的解決ヲナスヘキ留保ノ下ニ本件負担ニ応スルコト然ルヘシ尤モ先方ハ本年度ノ新漁区ニ對スル借区料ヲ相当低減シテ實際上本件ノ負担ヲ加ヘサルヘキ旨ヲ一度約言シタル趣ナルニ付先ツ其ノ約言ノ履行ヲ主張スヘキハ言ヲ俟タス

(+) 本項中借区料一割五分值上ニ就テハ本年ノ本邦人租借漁区カ昨年ト凡ソ同数及同一ナルトキハ其値上金額約二十万円其ノ三年間累計約六十万円ヲ算スルコトナリ而モ他面ニ於テ第二項ニ依ル手形割引料負担額約十七万五千五百円ノ外第九項ニ依リ蟹漁区カ一般競売ニ付セラレ我當業者カ希望漁区ヲ落札シ能ハサル場合當業者中出漁者カ負担スヘキ未納借区料分担額加重スヘク又第十項及第十二項ニ依ル漁獲高ノ直接的及間接的制限並第十一項ニ依ル摺糟製造禁止ヲ課セラレ（本禁止ハ多分撤回セラルヘキ趣）猶又場合ニ依リテハ第七項ノ食鹽消費税及前項

ノ五分税六七万円ヲ毎年負担セサルヘカラサルニ想到セ

ハ當業者ノ損失及困難多大ニシテ到底當業者ニ於テ其ノ

負担ニ堪ヘサルヘシ故ニ此点ニ就キ政府ニ於テ相當考慮

ヲ加ヘ何等カノ方法ヲ以テ當業者ヲ救濟スルコト然ルヘ

シ

(甲)露國側カ未納借区料中五十五万円ヲ三月十五日迄ニ支払

ハシメ我當業者カ今日迄ニ支払ハサルニ於テハ是迄ノ約

束ヲ破棄セムトスル先方ノ主張ハ未タ我方ノ要望ヲ完全

ニ容認セスシテ右支払ノミヲ強要シ換言セハ先方ノ主張

ヲ鵜呑セシメムトスルハ甚タ苛酷ナルノミナラス通信交

通等ノ關係上事實不可能ヲ強ユルモノナリ我方トシテハ

可成先方ノ主張ニ副ハムトスルモ右ノ理由ヲ指摘シテ先

方ニ対シ多少ノ猶予ヲ求ムルコト至当ナルヘシ

(乙)露國漁業監視官吏ノ本邦立寄ノ際上陸許可ニ関シテハ帝

国政府ノ外国人入國取締上露國側ニ於テ少ナクモ或ル程

度迄在浦潮帝國領事ノ資格及職務執行ヲ承認シ露國監視

官吏ニ対シ其ノ旅券査証ヲ為スコトヲ得セシメサル限り

實行不可能ナレハ此旨ヲ浦潮露國當局ニ回答セシメテ先

方ヲシテ自ラ本件解決方ヲ講セシムルコト然ルヘシ

完全ニ保護スルコトハ容易ナル事業ニアラス仮ニ數十隻

ノ船艦ヲ以テ保護スルトスルモ露國艦船軍隊及住民ノ

「バルチザン」的行動ヲ防遏スルコトハ事實不可能ト見

ルヘン故ニ邦人カ艦船ノ保護ノ下ニ漁業經營ヲ為サムト

スルモ少ナクモ地勢其他ノ關係上保護困難ナルカ又ハ漁

業価値ノ乏シキ地方ハ放棄シテ保護容易ナルカ又ハ漁業

価値多大ナル地方ノミニ出漁シテ漁業經營ヲ為スノ已ム

ヲ得サルニ至ルヘシ之ヲ具体的ニ言ヘハ漁業中心ノ観ア

ル「オコック」河付近、堪察加西海岸南部及同東海岸

堪察加河ノ三地方ノ漁場ノミニテ經營シ他ハ放棄シテ漁

業ヲ當マサルコト外ナカルヘシ斯くて邦人ノ休業

スヘキ漁場ハ大約百ヶ所ヲ算シ平年該漁場ニ於テ漁獲シ

得ヘキ魚類約八九万石此価額大約三四百万円ハ之ヲ失フ

コトナルヘン尚右休業漁区ニ残置シアル漁業用品建物等ハ多分其全部ヲ没収又ハ破壊若ハ焼却セラルヘク其ノ損害又數十萬円ニ上ルヘシ以上當業者ノ被ルヘキ損失ハ

政府ニ於テ相當救濟ノ必要アルヘシ

一、前項ニ依リ明白ナルカ如ク大正十年及十一年ヨリモ多

數ノ艦船ヲ使用スルノ必要アリ之ニ要スル経費ハ直ニ算

(参考ノ二)

自治的出漁ノ際被ルヘキ損失及費用概算

仮ニ本年自治的出漁ヲ実行スルトセハ日露關係ハ最近ノ両

國ノ國民的感情ニ顧ミ實際上殆ント交戦狀態トナリテ両國

間ノ關係ハ益悪化シ當分復旧ノ見込ナキニ至ルハ言フヲ俟

タス對列國ノ關係上帝國ハ甚シキ不利ノ地位ニ陷ルヘシ以

上ハ帝國ノ被ルヘキ無形的損失ナルトコロ其ノ外帝国政府

及當業者其ノ他ノ被ルヘキ有形的損失又相當多額ニ上ルヘ

キニ付左ニ之ヲ概算スヘシ

一、最近露領沿岸一帯ハ勞農政府ノ統一スルトコロトナリ

各要地ニ多少ナカラ兵力ヲ配備シタルト今次自治的出漁

實行ノ際必要露國官民ノ包藏スヘキ對本邦感情乃至其ノ

出ツヘキ態度等ヲ予想スルトキハ露國側ハ其ノ有スル艦

船及兵力ヲ以テ我漁業者ニ対シ直接妨害圧迫ヲ加フヘキ

ハ言フ迄モナク又地方住民ヲ使嗾シテ有ユル妨害又ハ破

壊的行為ヲ為サシムルノミナラス我艦船ニ対抗困難ナル

ヨリ焼ケ氣味トナリテ邦人生命ニ危害ヲ加ヘ又邦人漁場

ノ焼却破壊等ニ出ツヘキヲ予期シ得ヘシ果シテ然ラハ海

岸延長數千海里ニ亘リテ散在スル二百有余ノ邦人漁場ヲ

定シ難キモ少ナクモ三四百万円ヲ要スルモノト見ルヲ得ヘシ

三、最近浦潮方面ニ於ケル露國官憲ノ邦人ニ対スル態度ニ

鑑ミ本年自治的出漁ノ際ハ露國側ハ益々在留邦人ニ対シ

圧迫ヲ加ヘ恐ラク敵國民ニ対スルカ如キ態度ヲ以テ邦人

ノ自由ヲ束縛シ権利ヲ侵害スルナルヘク故ニ政府トシテ

ハ自治的出漁ヲ決スルト同時ニ在留邦人ノ撤退ニ付措置

ヲ講スルノ必要アルヘシ尚右在留民撤退ニ關連シ相当ノ

物質的援助ヲ要スルノミナラス撤退ノ上ハ最近西伯利撤

兵ノ際在留民ニ救恤金ヲ下付シタル例ニ依リ相当ノ救恤

費ヲ支出スルノ必要アルヘク以上ノ費用亦少ナクモ百万

円ニ達スヘシ尚右在留民撤退ノ為邦人カ西伯利ニ於ケル商

業的地盤ヲ失フカ為将来被ルヘキ損害亦多大ナルヘキモ

其損失ハ一部無形的ニシテ他ハ容易ニ算出シ難キニ付玆

ニハ之ヲ省略ス

四、尚本年ノ自治的出漁ニ當リ當業者ノ自営ノ為政府ヨリ

武器彈薬ヲ貸与シ又漁季終了ノ際漁場財產及漁業用品全

部ヲ本邦ニ持帰リ更ニ明年輸送スルコトセハ當業者ノ損害ヲ少ナカラシムルヲ得ムモ漁場建物ノ除去運送及再

建等ニ要スル費用少ナクモ數十萬円ニ上ルヘク是亦政府ニ於テ相當救濟ヲ為スノ要アルヘシ
以上ヲ要スルニ自治的出漁ノ為政府カ直接支出スヘキ経費三四百萬円ヲ算シ當業者ノ被ルヘキ損失五六百萬円ニ達スヘク後者ニ對シテハ政府ニ於テ相當ノ救濟ヲ要スヘク其他有形的無形的損害及算出シ難キ損失多大ノモノアルヘシ

二二九 三月十四日 農商務省水產局長ヨリ
外務省通商局監理課長宛

支払、借区料、査証、改良網、蟹漁区、漁獲

高及ビ製魚制限等ニ關シ露國側ノ意向受入レ

難キ旨申越ノ件

(村上水產局長ヨリ通商局監理課長ニ手交セラレタルモノ)

大正十三年度邦人露領出漁ニ關スル件

一、山口領事発電報第十一号(一)ノ五十五万円三月十五日仕払ヲ他ノ問題ト切離シ承認ヲ与フルコトヲ得ス又右三月十五日ノ仕払ハ實行困難ナリト認ムルヲ以テ依然我主張ヲ貫徹スルコトニ努ムルコト

二、同上第十一号(一)及同上第十二号(一)百二十万円ノ手形

於テ行フコトハ漁業協約ノ趣旨ニ反スルノミナラス且ツ本邦當業者ノ不便不利甚大ナルヲ以テ依然我主張ノ貫徹ニ努ムルコト
六、同上第十二号ノ改良網ノ使用禁止ハ漁業協約ノ趣旨及從来ノ慣例ニ反シ當業者ノ漁業經營ヲ困難ナラシムルモノナルヲ以テ之レヲ認ムルコトヲ得ス
七、同上第十二号ノ(五)借区料返戻ニ關スル露國側ノ主張ハ露國側カ借区料ノ取立ヲ嚴重ニシナカラ本邦當業者ハ避クヘカラサル原因ニ因リ漁区ノ放棄若ハ經營不能ニ陥リ然カモ予メ其ノ旨ヲ届出タル者ニ對シ尙ホ當該漁区料ノ免除ヲ為ササルコトハ苛酷ニ過クルモノト認ムルヲ以テ依然我主張ノ貫徹ニ努ムルコト
八、同上第十二号ノ(七)漁業用物件ニ對スル消費稅ノ賦課ハ漁業協約ノ根本ニ反シ且ツ本邦當業者ノ蒙ムル不利甚大ナルヲ以テ絶対ニ之レヲ認ムルコトヲ得ス
九、同上第十二号ノ(九)蟹漁区ノ特別扱ハ漁業協約ノ趣旨ニ反シ且ツ下記漁区競売否認ニ関スル我方ノ主義ニ反スルモノナルヲ以テ絶対ニ之ヲ認ムルコトヲ得ス
一〇、同上第十二号ノ(十一)乃至(十二)ノ漁獲高及製魚ノ制限並ニ

ノ交付ハ組合トシテハ其ノ性質上之レヲ振出スコトヲ得ス又當業者代表トシテモ其ノ資力ノ關係ニ於テ實行困難ナルノミナラス右手形ノ振出ヲ三月十五日ニ於テ為シ然カモ當業者ノ計算ニ於テ之カ割引ヲ為ストセハ前記百二十万円ヲ右期日ニ於テ一時ニ支払フコトトナルヲ以テ年賦ノ趣旨ヲ蹂躪スルモノナルヲ以テ露國側ノ主張ヲ承認スルコト能ハス

三、同上第十一号(二)借区料一割五分增加ハ借区料低下ニ關スル我方提案ノ趣旨ニ反シ當業者ノ漁業經營ヲ一層困難ナラシムルモノナルヲ以テ絶対ニ之ヲ認ムルコトヲ得ス四、同上第十二号(一)ノ露國提案ノ数字ヲ以テ二十二年度以前ニ於ケル一切ノ相互計算ヲ解決スル点ハ「オホツク」事件其他本邦當業者ノ被害ニ對スル賠償要求ノ關係アルヲ以テ二十二年度以前ニ於ケル一切ノ對露支払ノ解決トスルニアラサレハ絶対ニ之ヲ認ムルコトヲ得ス

黒龍江方面云々ノ文句ニ付テハ同方面ニ於ケル漁業管理ニ對スル所謂露國損害ニ付我方トシテハ将来責任ヲ認ムルコトトナル虞アルヲ以テ絶対ニ之ヲ認ムルコトヲ得ス五、同上第十二号(三)査証事務ヲ極東沿岸七ヶ所ノ地点ニ

擗粕製造禁止ハ漁業協約ノ根本義ニ反シ我漁業権ノ實質ヲ毀損スルモノナルヲ以テ絶対ニ之レヲ認ムルコトヲ得ス一一、同上第十一号(二)ノ条件変更ノ(一)及同上第十二号(一)魚族蕃殖費五分稅ハ從來反対シ來レル事情昨年借区料ノ内ニ事實上之ヲ包含シアルニ拘ラス露國ハ蕃殖保護上ノ施設ヲ為サス又五分稅ノ如キニテハ其ノ実効ヲ挙ケ得スト認ムルヲ以テ之レヲ承認スルコトヲ得ス一二、同上第十二号(一)競売執行ニ付テハ仮令形式のニモセヨ本邦當業者ヲシテ之レニ參加セシムルコト能ハス依然包括契約ヲ絶対ニ主張スルコト

二三〇 三月十五日 在浦潮渡邊總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

和ノ余地ナキニツキ至急支払限リ他ノ漁業条件緩和ノ請訓ノ件

第八八号

山口第二〇〇号

往電第一二号ニ關シ數回交渉ノ際ニ於ケル本官ノ感想ニテハ我方カ先ツ以テ未納金ノ仕払ヲ了セサル限り漁業条件ニ

関シ何等交渉ノ余地ナク特ニ我方カ十五日迄ニ仕払ヲ為シ得サリシコトハ益々我方ニ取り不利ナル形勢トナリタルモ此際速ニ仕払サヘ完了スレハ尚多少条件緩和ノ見込モナキニアラスト思考セラルニ付此際至急仕払履行方ニ付御詮議アリタク何分ノ御回訓ヲ俟ツ

一三一 三月十六日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ

松井外務大臣宛（電報）

露國側ニテ現金接受ト同時ニ漁業ノ許容保証書ヲ交付スベキ言明ニツキ至急手形交付依頼

ノ件

（三月十七日接受）

第九二号

山口第二二号

貴電第四四四号ニ関シ

十六日「アンドリヤノフ」ト会見シ送金手配済ノ電報ニ接シタル旨及手形ニ關シテハ何等言及シアラサルニ依リ折返シ電照シ置キタルニ付手形交付方ニ關シテモ近々電訓ニ接スルコト期待スル旨ヲ述ヘタル所「アンドリヤノフ」ハ然ラハ現金接受ト同時ニ昨年適用セル条件ノ外ニ二月一十九日付命令ニ掲タル条件及借区料一割五分増加ノ新条件ヲ

加ヘ三年長期漁業ノ許容保証書ヲ交付スル旨答ヘタリ尚「アンドリヤノフ」ハ手形交付ノ条件ノ下ニ右保証書ヲ交付スルモノナルニ付手形交付方至急御手配ヲ乞フ

一三二 三月十八日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ

松井外務大臣宛（電報）

対露支払金ニ關シ機宜ノ処置トシテ小切手ヲ

以テ交付セルトコロ露國側ヨリ書面送付越シ

タルニツキ報告ノ件

別電 三月十八日在浦潮渡辺總領事代理発松井外務大臣宛電報第九八号

露國側ヨリ未納金及ビ漁区貸下保障方ニ關スル書面送付越シニツキ報告ノ件

第九七号

山口第二五号

貴電第四四四号ニ關シ送金方御手配ノ趣意成就テハ送金ノ当地到着ハ單ニ時間ノ問題ニ過キスト思考セラレ且當業者代表ニ於テハ此ノ際露國側ニ對シ現金支払ヲ速ニ履行スルコトハ今後ノ交渉進捗上極メテ喫緊事ト考ヘ右履行ノ決議ヲ為シ本官モ亦之ニ同意ナルニ付代表ハ機宜ノ処置トシテ便

付スルヲ要ス

一千九百二十四年十二月一日迄ニ四十万円

千九百二十五年十一月一日迄ニ四十万円

千九百二十六年十二月一日迄ニ四十万円

前記金額ハ三月十五日ヨリ晚カラス約束手形ヲ以テ保障シ之ニハ日本漁業者代表ノ署名貴官ノ証明及朝鮮銀行浦潮斯徳文店ノ保証ヲ付スルヲ要ス

備考前記金額ノ支払ト共ニ相方ノ追加的協定ヲ以テ定メラルヘキ利子ヲ毎年納付スルモノトス

（一）前記義務履行ノ場合ニハ露國側ハ昨千九百二十三年度ニ

適用セラレタル条件ニテ海面漁区ヲ日本漁業者ニ貸下ケラ
許容スルコトヲ保障ス但シ右条件ニ付スル三月四日 Kra-
snoe Znamiya 新聞第一〇六九号ニ公告セル本職命令第六
三号ノ六ニ掲タル変更及追加并ニ昨年度借区料ニ對シ一割
五分タケ借区料ノ増加ヲ以テス

（二）武百七十五万ノ金額中ニハ一九二二年度迄ノ極東漁業厅

及日本漁業者トノ間ニ於ケル一切ノ相互計算ヲ包含ス但一
九二〇年度乃至一九二三年間ニ於ケル黒龍海湾ノ經營ニ對
付セル五十五万円ノ外尚左ノ通り三年間ニ百二十万円ヲ納
シ支払フヘキ金額ヲ除ク

宣鮮銀支店ヨリ融通ヲ受ケ去ル十七日小切手ヲ以テ露國側ニ交付シタル處露國側ハ「アンドリアノフ」ヨリ本官ニ対シ別電ノ通十七日付ヲ以テ書面ヲ送付シ越セリ尚十八日「アンドリアノフ」ト会見スルコトトナリ居ルニ付其際書面記載事項ニ關シ特ニ三年長期ノ件ニ關スル質疑ヲモ為ス考ナリ又右書面ト共ニ漁獲高制限ヲ記載セル表ヲ送付シ越シタルニ付右ハ明十九日帰朝ノ途ニ就クヘキ佐々木代表ニ託送スヘシ

（別電）

三月十八日在浦潮渡辺總領事代理発松井外務大臣宛電報第九八号

露國側ヨリ未納金及ビ漁区貸下保障方ニ關スル書面送付越シニツキ報告ノ件

（三月十九日接受）

第九八号

本職ハ茲ニ左ノ通り貴官ニ通知スルノ光榮ヲ有ス

（一）未納金問題ノ終局的調節ノ為メ日本側ハ東京ニ於テ「ヨッフェ」氏ニ交付セル百万円及極東漁業厅へ小切手ニテ納付セル五十五万円ノ外尚左ノ通り三年間ニ百二十万円ヲ納

四日本漁業者ハ（脱）並一九二三年度ニ於ケル何等ノ要求ヲ提示スルノ権ヲ有セス

五日本漁業者ハ三月二十五日ヨリ遅カラス遅滞ナク一九二三年度ニ於ケル不正漁場ニ対スル罰金及營業税ノ不足額ヲ納付スルヲ要ス

二二三 三月二十日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

漁区ノ長期契約等ニ関スル交渉ノ結果報告ノ件

第一〇八号至急

（三月二十一日接受）

山口第二八号

往電第二五号末段ニ関シ二十日一同ト共ニ「アンドリアノフ」ト会見シ三時間ニ亘リ懇談ヲ遂ケタル所漸ク左ノ結果ニ到達セリ

（一）十七日付「アンドリアノフ」ノ書面ニ添付シ来レル日本人ニ提供ヲ承諾セル漁区表（漁獲高制限ヲモ記載シアリ佐々木ニ托送セリ）中ニハ三年長期ト一年短期トノ区別アルカ之迄総テ三年長期契約ヲナスヘキ建テ前ニテ交渉ヲ継続シ来リタルモノナルニ付漁区ハ総テ三年長期トセラレムコトヲ要求シタル所「アンドリアノフ」ハ學術上ノ見地ヨリ

（二）露国側ノ発表漁区表中ニ掲ケアル漁区ニ対シ我漁業者ヨリ希望漁区ヲ申出タル所之ヲ我當業者ニ提供セル漁区表中ヨリ削除シアルモノアルニ付右漁区ヲ希望者ニ提供セラレタシト述ヘタル所右漁区ハ國営トスル目的ヲ以テ削除シタルモノニシテ其數約十五ヶ所ナルカ右ニ関シテハ申出ノ次第ヲ考慮シ當業者参加ノ上之カ審議ヲ遂ケ数ヶ所丈ハ當業者ニ提供スルコトニ取計フヘシト答ヘタリ

（三）又十七日付書面ニハ昨年我當業者ノ經營セル漁区二十九ヶ所ニ對シ露人ヨリモ運動ノ結果出願アリタル故ヲ以テ之ヲ露国人ニ提供スルコトアルヘシトテ該漁区表（佐々木携帶セリ同氏ヨリ請求ノ上御参照ヲ請フ）ヲ添付シ越シタルニ

付右漁区ハ全部我當業者ニ提供セラレタシト述ヘタル所我當業者希望漁区中ニモ昨年露国人ノ經營セル漁区ヲ包含シ

アリシニ付我當業者ノ希望漁区中ヨリモ露国人希望漁区ヲ引抜クコトアルヘントナンタルモノナルカ極力交渉ノ結果右漁区ハ全部我當業者ニ提供スヘシト答ヘタリ

二三四 三月二十日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

借区条件ノ撤回並ニ蟹漁区競売猶予ニ関シ露

國側ノ回答報告ノ件

第一〇九号（至急）

（三月二十一日接受）

山口第二九号

貴電第四九号ニ関シ

「アンドリヤノフ」ト懇談ヲ遂ケタル処「アンドリヤノフ」ハ其（一）ニ關シ命令中ノ条件ハ撤回シ難シ尤モ特ニ約束シタル条項（往電第一二号一一及一二参照）ハ履行スヘシ

蟹漁区ハ先ニ言明シタル通り一般漁区ト切離シテ包括契約トナスコトモ承諾シ難シ其（二）ニ関シテハ一般漁区競売前ニ蟹漁区競売ノ事務ヲ終了スル目的ヲ以テ貸下ヶ期日ヲ二十二五日ト定メタルモノナルニ付之ヲ延期シ難シ尚百二十万円

六 日ソ漁業問題 二三四 二五五

或ル漁区ヲ一年漁区トシタルモノニテ之ヲ総テ三年長期ニ改メ難シ是等漁区中ニハ來年度ニ於テ或ハ閉鎖セラルルモノアルヘク或ハ又一年漁区トシテ發表セラルモノモアル

ヘシ三年漁区ト一年漁区トハ七割五分ト一割五分トノ比例ヲ保持スルコトニ定メアリ此比例ヲ変更セサル限り若シ或漁業者ニシテ一漁区ノミノ經營ヲ申込然モ該漁区カ一年短期间トナリ居ルカ如キコトアラハ之ヲ三年長期ニ引直スコトハ異議ナシト述ヘタリ

ニ関シテハ最近日本貨ノ相場暴落シタルニ鑑ミ現金又ハ手形ノ何レニテモ三月二十五日迄ニ交付ヲ了セサル時ハ日本貨ニテハ受入レ難シト述ヘタリ

二三五 三月二十一日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

蟹漁区及ビ一般漁区ノ長期、句括等ノ契約二 件

（三月二十一日接受）

山口第三二号

第一一四号

（三月二十二日接受）

山口第三二号

二十一日一同ト共ニ「アンドリアノフ」ト会見シ本官ヨリ吾人ハ昨二十日会見ノ結果ニ付協議ヲ遂ケタル結果昨年我當業者ニ於テ經營シ本年モ亦經營ヲ希望スル漁区ハ一般漁区ト蟹漁区トヲ間ハス三年ノ期間ヲ以テ我當業者ニ貸与セムコトヲ更ニ請求スルノ結論ニ達シタル旨述ヘタル所「アンドリアノフ」ハ昨日言明シタル通蟹漁区ニ関シテハ三年

長期トナスコトモ包括契約トナスコトモ詮議シ難ク一般漁区ニ関シテハ一年漁区ヲ全部三年長期トナスコトハ不可能ナルモ一年漁区ノ数ヲ減少スルコトニハ異議ナク又國営希

望ノ漁区ニ閲シテハ本日双方協議ノ上数ヶ所ノ漁区ヲ譲ル
意志ナリシ旨答ヘタリ依テ本官ハ右ニ閲シテハ請訓ノ上ニ
アラサレハ何等意見ヲ述ヘ難キ立場ニアル旨述ヘタル所
「アンドリアノフ」ハ實際問題ニ付交渉ヲ進メタキ希望ナ
リシニ日本側ニ於テ一般問題ニ付請訓ヲ要スル儀ナラハ自
分モ莫斯科ニ請訓スル所アルヘシト答ヘタルニ付之ニテ会
見ヲ了ハリ去ラムトスル際「アンドリアノフ」ハ二十五日
迄ニ手形ヲ交付セラレタク然ラサル場合ニハ日本貨ニテハ
受入レ難キ旨更ニ付言セリ就テハ前記我方ノ主張ニ閲シ至
急御詮議ノ上二十五日迄ニ何分ノ儀御回訓ヲ請フ尚本日ノ
市場ニ於ケル日本貨相場百二十三円ナリ右御参考迄

二三六 三月二十一日 松井外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)
蟹漁区ノ契約ニツキ更ニ折衝ノ上回電方訓令
ノ件
第五二号 至急
山口へ左ノ通り
貴電第二五号別電四及五ハ具体的ニ何ヲ意味スルヤ先方ニ
就キ御取調ノ上回電アレ尚往電第四九号末段ニ閲シ蟹漁区
ムルコト出来サルヤ()右容レラレサルニ於テハ本漁区ノミ
ニ閑シ特別ノ総括契約ヲ為シ其貸下期限ヲ三年トシ借区料
ハ毎年露国当局ト当業者ト協議ノ上改定スルコトニ承諾出
来サルヤ先方ト懇談ヲ遂ケラレ結果電報アリタシ

二三七 三月二十二日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛(電報)
本邦漁業者ノ請求權及ビ蟹漁区契約等ニ閲シ
露國側ノ意向回報ノ件

第一一七号 (三月二十三日接受)
山口第三五号

貴電第五二号ニ閲シ

「アンドリヤノフ」ニ就キ取調ヘタル処往電第二五号別電
ノ四ハ日本漁業者ノ一九二一年及二二年度ニ於ケル露國官
憲ニ差押ヘラレタル漁区及一九二三年度西南区方面ニ於ケ
ル地方官憲ノ不当徵収ニ對シ何等ノ要求權ヲ有セサルノ意
五一九二三年度ニ於ケル罰金六万六百六十留五十九哥(六

〇六六〇、五九) 営業稅八万二千八百三十七留五十哥(八
二八三七、五〇) 航海證明書料四十八留(四八) 合計十四
万三千五百四十六留九哥ヲ納付スルヲ要スル意ナリ尤モ
「ヨツフエ」ヘ交付セル十万円ノ内ヨリ諸手數料二万六千
四百六十九留三十二哥(二六四六九、三三) ヲ控除シタル
残額ヲ前記金額ト相殺スルヲ得ヘキハ勿論ナリ尚漁区ニ閲

シテハ御來示ノ()及()ニ閲シ「アンドリヤノフ」ト懇談ヲ
遂ケタル処「アンドリヤノフ」ハ何レモ承諾セス昨年日本
人ノ經營蟹漁区十四ヶ所ニシテ其ノ借区料僅ニ武万円余ナ
リシカ本年ハ發表蟹漁区五十ヶ所ノ内一ヶ所タリトモ國營
トシテ除外スルコトナク總テ我當業者ニ對シ露國人ト均等
ニ事實上ノ競売ニ參加セシムルコトトシタルニ由リ一般総
括契約ニ含マシムルニモ特別總括契約ヲ為スコトニモ同意
シ難シ尤モ将来トテモ日本人ニ競売參加ヲ許ス意向ニテ之
ニ閲シテハ文書ヲ以テ保証スルモ差支ナシト述ヘ尚日露ノ
關係目下ノ如キ狀態ナル際ニ拘ハラス日本當業者ニ對シテ
十分好意ヲ以テシ一般漁区ニ閲シ最初ハ日本人ノ經營セル
漁区中二十四ヶ所ヲ國營ト為ス考ヘナリシニ之ヲ十五ヶ所
ニ減シ更ニ十ヶ所ニ減スルコトト為シタリ例へハ日露漁業

ヲ総括契約ヨリ除外スルコトハ當業者ノ未納借区料ノ配賦
及配賦金支払ノ確定ヲ期スル上ニ於テ不都合甚シキニ付()
借区料ヲ或程度マテ値上シタル上一般総括契約中ニ含マシ
ムルコト出来サルヤ()右容レラレサルニ於テハ本漁区ノミ
ニ閑シ特別ノ総括契約ヲ為シ其貸下期限ヲ三年トシ借区料
ハ毎年露國當局ト當業者ト協議ノ上改定スルコトニ承諾出
來サルヤ先方ト懇談ヲ遂ケラレ結果電報アリタシ

二三八 三月二十二日 閣議決定
付記 閣議決定ニ閲スル三月二十五日外務、大藏、農商
務三大臣ノ協定

一、極東露領沿岸ニ於ケル我漁業権ノ確保ヲ期セムトセハ
露國側ト正式商議ヲ開始シ至ル迄ノ便法トシテ實際問題ノ
解決ヲ期スルノ外ナキヲ認メ右趣旨ニ基キ過般來浦潮ニ
於テ山口領事ヲシテ當業者側派遣員ト協力ノ上露國當局
ト交渉セシメタリ

二、其ノ結果露國側ニ於テハ我方カ懸案中ノ大正十一年度
以前ノ漁区使用料及未納金問題(参考ノ()省略)ヲ一定
条件ノ下ニ解決スルコトヲ認諾スルニ於テハ本年度以降

三個年間ハ一定条件ノ下ニ我當業者ニ漁区租借ヲ認ム可キ旨文書ヲ以テ保障セリ

四、右条件ニ関スル彼我ノ主張ノ間ニハ尚若干ノ差違アルヲ以テ（参考ノ（）省略）事情ノ許ス限り極力我方ノ主張貫徹ニ努ム可キハ勿論ナルモ此上我方ノ態度決定遷延スルニ於テハ遂ニ自治出漁ノ舉ニ出ツルノ止ム無キニ至ル虞モ無キニ非サルヲ以テ左記方針ニ従ヒ本件交渉ノ妥結ヲ期スルコトト致度シ

記

一、露國側ニ対シ本年我當業者ノ締結スル漁区租借契約ハ日露漁業協約ニ關スル正式商議開始ニ至ル迄ノ事實上ノ便法ニシテ之カ為メ何等日本側カ旧露國政府トノ條約ニ依リ獲得セル権利々益ニ変更ヲ來ス可キニ非サル旨及契約条件ニ付テハ将来漁業協約成立ノ上ハ其ノ条項ニ照シ必要ノ調整ヲ施ス可キモノナル旨適當ノ時機及形式ニ於テ通告スルコト

二、當業者締結ノ契約ニ付テハ露國側カ查証官ヲ少クトモ函館ニ漁業ニ必要ナル期間暫駐セシムルコトヲ条件トナスモノナル旨適當ノ方法ヲ以テ通告シ露國側ノ諒解ヲ取

付クルニ努ムルコト
右査証官ノ臨派ニ付テハ浦潮ニ於テ解決ヲ期ス可キモ必要ノ場合ハ他ノ方法ニ依リテモ我要望ノ貫徹ヲ期スルコト
三、漁区租借条件ニ付テハ極力我要望事項ノ貫徹ニ努ム可キモ協商ノ成立ヲ期スルコト（別記参照）
四、我當業者代表カ露國側ニ対シ支払ヲ約シ且監督官庁ニ於テモ右支払ヲ容認セル百二十万円ニ付テハ露國側ノ要望ヲモ考慮シ左ノ通措置スルコト

イ、大正十三年十二月一日、同十四年十二月一日、及同十五年十二月一日迄ヲ夫々其ノ支払期日トセル金四十万円宛ノ約束手形ヲ當業者代表ノ名義ヲ以テ振出シ露國側ニ交付ス可キ旨露國側ニ約束シ可成速ニ右交付ノ実行ヲ期スルコト

ロ、右手形ニハ所謂未納金問題ニ關スル日露共同委員会日本側委員長タル山口領事ニ於テ證明ヲ与ヘ且在浦潮朝鮮銀行支店ヲシテ之カ引受保証ヲ為サシムルコトハ、右手形振出ニ關スル當業者代表ト各個ノ關係當業者トノ法律關係及右手形ニ付スル鮮銀ノ保証ニ付テハ監

督官庁ニ於テ必要ノ支援ヲ与フルコト（参考ノ（）省略）

五、前項手形金額ニ付スル利息ニ付テハ日露双方ノ追加協定ニ於テ定メラル可キ額及方法ニ依リ露國側ニ納付スルヲ容認スルコト

六、漁区借料割増及魚族保護税並ニ前記手形ノ利息ニ付テハ當業者ノ負担能力ニ鑑ミ政府ニ於テ當業者団体タル露領水産組合ニ付シ資金調達上ノ援助ヲ与フルコトニ付考慮スルコト

右ニ付テハ大蔵、農商務、外務各省關係官ニ於テ具体案ニ付協議ノ上更ニ閣議ニ於テ審議決定スルコト

別

漁区租借条件中日露間主張ノ相違点

一、製魚制限 本制限ハ協約ニ違反スルモ露國側ノ定メタル製魚種類ノ比率ハ當業者ニ於テ實際上實行シ居ルモノニシテ經濟上ノ苦痛ヲ伴ハス

二、搾粕製造禁止 本禁止ハ協約ニ違反シ且鯨漁区數ヶ所其年產額約三十万円ニ關スル問題ナルモ解禁セシメ得ル見込アリ

三、五分稅（魚族養殖費） 本稅賦課ハ協約上議論ノ余地ナキニシモアラス邦人ノ本稅負担ハ約七万円ナルトコロ
昨年ハ漁区使用料中ニ包含セシムルコトトセリ本年ハ露國側ハ新漁区使用料ニ於テ斟酌スヘキ旨ヲ約シ居レリ
四、漁獲高制限及改良網 改良網使用ニ就テハ協約上議論ノ余地アリテ已ニ過去十年間ノ懸案ナリ當業者ハ切ニ其使用許可ヲ主張シタル結果露國側ハ改良網許可ノ上ハ同網ニ依ル濫獲ヲ防カムカ為条件トシテ漁獲高制限ヲ課セムコトヲ漏シ居タルトコロ今回該制限ヲ定メ本年ノ実績如何ニ依リ明年ヨリ改良網使用ヲ許可スヘシト述ヘ居レリ當業者ハ該制限実行ノ上ハ改良網ノ使用ヲ直ニ許可セシムルヲ要スト主張シ居レリ

五、蟹漁区 昨年度ニ於ケル本漁区ノ他ノ漁区ニ付スル比較左ノ如シ
蟹漁区数 一四 二五四 ○五五強
租借漁区数 約三万円 約百二十七万円 ○二三強
借区料 収益 約百五十万円 約三千五百万円 ○四三弱

露国側ハ我要望ニ拘ハラス本漁区ヲ他ノ漁区ノ総括契約ヨリ除外シテ一般競売ニ付セムトスルトコロ本漁区カ大正九年来ノ新開漁区ニシテ其借区料ノ標準未タ定マラス現ニ前表ニ明カルカ如ク借区料カ収益ノ僅々二分内外ナルニ微シ露国側カ該漁区ヲ競売ニ付セムトスルハ敢テ無理ナル措置ニアラスト認メラルモ我方ハ未納借区料配賦等ノ関係モアレハ(一)本漁区ヲ総括契約ニ包含セシメ(二)其成ラサルトキハ三年間ノ期限ヲ以テ貸下ケシメ毎年借区料ヲ改定スルコトシタシ

六、借区料 露国側ハ昨年ニ比シ一割五分方値上ヲ為ス由ノトコロ昨年ニ於テ邦人借区料百三十万円カ邦人総収益三千五百万円ニ対シ僅々四分弱ナルニ想到セハ本値上ハ必スシモ不当ニアラス尤モ本年以後未納借区料年賦金及其ノ利息等ノ負担モアルコトナレハ借区料ヲ可成低減セシムル必要アルヘシ

七、食塩消費税

当業者ハ本税カ昨年通り西南区ノミニ於テ徵収セラルル限り差支ナシト決議シ居ルモ元来從来ノ慣行ニ反スルモノナルヲ以テ之カ免除ヲ主張スル必要アリ

八、未納借区料清算 露国側ハ「二百七十五万円案ヲ以テ

一九二二年迄ノ極東漁獵厅ト日本漁業者トノ間ニ於ケル一切ノ相互計算ヲ包含ス但一九二〇年乃至一九二二年ニ於ケル黒竜江海湾ノ經營ニ對シ支払フヘキ金額ヲ除ク」ト為シ居ルトコロ右ニ依レハ「オホツク」其他ノ損害ハ除外セラレ居ルモノト認メラルモ尚為念「今回ノ未納金問題解決ハ大正十一年以前ノ漁区使用料ト大正十二年ニ於ケル不當課税問題トノミニ閣スルモノナル」旨文書ヲ以テ明確ニ為シ置ク必要アリト認ム

(付記)

閣議決定ニ関スル三月二十五日外務、大藏、農商務三大臣ノ協定

露国側ヘノ手形ヲ交付時期、鮮銀ノ引受保証及ビ蟹漁区競売ニ当業者ノ任意参加容認ニ関スル件

本件ニ關シ本月二十二日閣議決定ノ次第アリタル処交渉上我方ノ立場ヲ有利ナラシムル為左ノ通り措置スルコトト致度シ

記

一、別紙當業者側ノ請願ヲ容認シ此際當業者代表ヲシテ所要ノ手形ヲ振出サシメ露国側カ我方ノ要望ヲ容ルニ於テハ何時ニテモ右ノ手形ヲ交付ス可キ旨言明セシメ以テ

ル由ナル処右査証官臨派ノ件ハ御承知ノ通り漁業經營ノ能不能ニ關スル重要案件ニシテ現ニ昨年度ニ於テハ折角借区契約成立セル後ニ至リ此点ニ付協商決裂セムトセシ次第ナルニ鑑ミ今回解決セントスル未納金問題及三年間ノ漁区租借契約ニ付テハ右査証官臨派ヲ絶対的条件トスルモノナルニ付此点ハ篤ト「アンドリヤノフ」ニ開示セラレ度シ

二、露国側ニ於テハ漁獲高制限ハ改良網使用問題ニ關連スルモノニテ本年ノ実績如何ニ依リ明年度ヨリ許可方詮議ス可キ旨述ヘ居レル由ノ処露国側カ例ヘハ日本當業者ニ對シ適用セサル旨文書ヲ以テ申入ルニ於テハ改良網問題ハ多年ノ懸案ナルニ鑑ミ今後ノ商議ニ讓ルコトトナスモ差支ナシ

三、擁糞製造禁止ニ付テハ是非共本件解禁ヲ主張セラレタ
ト
查証、漁獲高制限、改良網、擁糞禁止、蟹漁
区、製造方法ノ制限、関税地方税五分税、借
区料等全般ニ亘ル我方ノ意向指示ノ件

第五三号(至急)

山口第二二号ニ関シ

一、査証官ヲ漁業ニ必要ナル期間函館及横浜(少クトモ函館)ニ駐在セシムルコトニ付テハ「アンドリヤノフ」ニ於テ未納金問題解決ノ上ハ中央政府ニ請訓方約束シ居レ

四、蟹漁区除外ハ年賦金ノ配分並ニ分担金支払ノ確實ヲ期スル上ニ於テモ甚タ都合悪シキニ依リ同漁区モ亦総括契約中ニ編入方主張セラレ度ク止ムヲ得サレハ租借料ハ一

般漁区ニ関スルモノト切離シ且其借区期間ハ之ヲ三年ト

六 日ソ漁業問題 二四〇

三三一〇

シ毎年借区料ヲ協定スルコトニ同意セラレ差支ナシ
五、製魚方法ノ制限ハ我當業者カ其製品ノ向上ヲ計ル可キ
ハ當然ニテ今後我監督官厅ニ於テモ此趣旨ニ依リ當業者

ヲ指導ス可ク且漁業協約ノ規定ニモ明カニ反スル次第ナ
ルニ付右ハ今後漁業協約ニ関スル商議ニ際シ決定スルコ
トトシ少ク共日本當業者ニ対シ適用セシメサルコトヲ極
力主張セラレタシ

六、露國側ハ關稅、地方稅等ハ之ヲ徵收セサル旨約言セル

由ナルモ塩其他ノ消費稅ニ付テモ從来ノ慣行通り免除方
主張セラレタシ

七、五分稅ニ付テハ之ヲ承認スルヲ得サルモ露國側カ其ノ

内部ノ關係ヲ明カニシ蕃殖保護上ノ施設ヲ為スコトヲ約

スルニ於テハ三年間ヲ限り昨年通り借区料中ニ事實包含

セシムルコトトシ差支ナキモ「ア」ノ約言ノ如ク新漁区

借区料協定ニ際シ斟酌方主張ノコト

八、借区料ニ付テハ極力低減方主張セラレタシ

九、今回ノ未納金問題解決ハ大正十一年以前ノ支払金ト大
正十二年度ニ於ケル不当課稅問題トノミニ関スルモノナ

ル旨為念文書ヲ以テ明確ニナシ置カレ度シ

二四〇 三月二十四日

在浦潮渡邊總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

未納金ノ納付ヲ行ナワザル限り我方ノ要求貫
徹困難ニツキ至急手形ノ交付方要望ノ件

第一一九号(至急)
山口第三六号

貴電第五三号ヲ以テ御電訓ノ要望貫徹方極力努力致スヘキ
モ右ニ閱シテハ之迄數回ニ亘リ交渉シタル處ニシテ査証官
問題ノ如キハ最近會見ノ際ニモ先方ハ未納金問題解決ノ上
我方要望ヲ中央政府ニ移牒スヘキモ主トシテ日本側ニ於テ
「カラハ」ニ交渉セラレタキ旨述ヘ居タリ擁溤製造禁止
ニ就テハ是亦未納金問題解決ノ上解禁万取計フヘキ旨ヲ約
シ(往電第二九号御参照アリタシ)蟹漁区ニ関シテハ往電
第三五号ヲ以テ電報ノ通リニ有之目下我方カ手形ノ交付ヲ
完了セサル限り我方要望貫徹ノ望ナキ現状ナルニ付此際至
急手形交付方御説議ヲ請フ猶手形發行ニ関スル手続ハ何時
頃完了ノ御見込ナリヤ御回示ヲ請フ

二四一 三月二十五日

松井外務大臣ヨリ
在浦潮渡邊總領事代理宛(電報)

一般漁区ハスベテ三年ノ総括契約トスルヨウ
再折衝方訓令ノ件

ラレタキ旨訓電ノ件

第六一号(至急)

山口へ左ノ通

六 日ソ漁業問題 二四一 二四二

十、露國側カ以上(乃至ハ)ノ我主張ヲ容ルルニ於テハ(甲)

五十五万円ヲ交付シ(乙)百二十万円ニ對スル約束手形

ヲ當業者代表ヲシテ交付セシム可キ旨約束セラレ差支無

シ付テハ右ノ次第ヲ「ア」ニ申入レラレ前記諸点ニ関ス

ル我方要望貫徹方努力セラレ結果至急回答アリタシ尤モ

右手形ニ関シテハ(イ)金額四十万円、夫々本年明年及明後
年ノ十二月一日ヲ支払期日トセル三通トナスコト(イ)手形

発行ニ付テハ關係當業者間ノ法律關係ヲ明確ニシ露國側

ニ對スル支払義務履行上違算ナキヲ期スルヲ要スルニ付

此等ノ手続完了ヲ俟テ交付ス可キコト(ハ)右手形金額ニ付

スル利息ニ付テハ從來ノ經緯モアルニ付承認シ難キ意向

ナルモ右ハ別ニ商議スルニ異議ナキコトノ三点ニ付露國

側ノ諒解ヲ取付ケ置カレタシ尚手形交付ノ場合ハ右手形

ニ對シ朝鮮銀行ニ於テ引受保障ヲナスコトニ付テハ十分

尽力ス可キ旨約セラレ差支ナシ

第六二号(至急)

山口へ左ノ通

貴電第三二号ニ關シ邦人ノ希望漁区ニ就テハ客年十一月一

三三一一

日付「アンドリヤノフ」ノ書面ノ次第モアリ当業者ハ三年期限ノ総括契約ヲ期待シ居タル次第モアルニ付右漁区特ニ昨年經營漁区ハ蟹漁区ヲ除ク外全部三年ノ総括契約ヲ以テ貸下ケ國營漁区ト為サシメサルコトハ我方ノ最モ重キヲ置ク点ナルニ付此上共篤ト「ア」ト懇談ヲ遂ケ其諒解取付方努力セラレタシ

二四三 四月一日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

手形発給手続遲延ノタメ競売期日マデニ我要
求ヲ貫徹スル能ハズ対応策請訓ノ件

付記 四月一日付在浦潮山口領事ヨリ外務省通商局監理課宛私信

競売参加不能トナリタル事情並ビニ競売当日ノ状況ニ関シ報告ノ件

第一三五号（至急）

山口第四七号

手形引受保証方ニ関シ三十日貴電第六七号ヲ以テ御来示アリタルニ付三十一日「アンドリヤノフ」ト会見シ午後九時ヨリ午前一時ニ亘リ我方要望貫徹方ニ付極力交渉ノ結果

「アンドリヤノフ」ノ決答左ノ如シ
貴電第五三号ノ（六）ニ関シテハ漁業ニ必要ナル物品ニ對シテハ関税消費税ヲ免除スヘキ旨約言セリ（三）ニ関シテハ西南漁区十ヶ所ニ於ケル擁槽製造ノ許可ヲ莫斯科ニ電請シ日本側ノ希望ヲ支持スヘシ然ラハ莫斯科ヨリハ承諾シ来ルヘシト信スト云ヘリ（四）ニ関シテハ貴電第五九号ヲ以テ御電訓ノ次第モアリシニ付メ真藤ヲシテ予備的交渉ヲ為サシメタル處「アンドリヤノフ」ハ三年長期ヲ承諾シ借区料トシテ確詰一箱ニ付一留ヲ提供シ「アンドリヤノフ」ハ一留五十哥ヲ要求シ手形交付ノ際更ニ交渉ヲ重ヌルコトニナリ居リシカ「アンドリヤノフ」ハ只今モ交渉ノ繼續ニ異議ナキ旨ヲ述ヘタリ尚三十一日蟹漁区ニ関スル貸下条件ノ交付ヲ受ケ之ヲ瞥見シタル処昨ニ比シ幾多ノ新条件アリシニ依リ此点ニ言及シタル處「アンドリヤノフ」ハ条件ニ付テハ後ニ至リ協議ノ上変更スルモ差支ナキ旨言明セリ

（八）ニ関シテハ極力低減方ヲ主張シタルモ「アンドリヤノフ」ハ借区料ノ値上ハ三年長期ト為シタル關係上モアリ屢々タル通り之ヲ低減シ難シ借区料ハ日露人ノ區別ナク

又河川漁区ト海面漁区トヲ問ハス一帯ニ値上シ浦潮付近ノ

鱸漁区ノ如キハ二倍トシタル処モアル程ナリ日本人ニ対シテハ総括的契約ノ如キ露人ニ比シ多大ノ利益ヲ与ヘ居ルコトニ留意セラレタント言ヘリ

（九）ニ関シテハ貸下漁区ノ大半ハ日本人ノ手ニ帰スヘキニ依リ蕃殖保護上ノ施設ノ結果其利益ヲ受クルハ主トシテ日本人ナルコトヲ念頭ニ置カレタク之迄個人ニ孵化場ノ設備ヲ為サシメタルコトアルモ不成功ニ終リタルニ依リ今回漁業庁ニ於テ之ヲ為スコトシタル次第ナルカ五歩税ヲ借区料中ニ包含セシムル時ハ全部国庫ノ収入トナリ漁業庁ニ於テ之カ配布ヲ受クルコト能ハサルニ付漁業庁ニ於テ別ニ五歩税ヲ徵収シ以テ蕃殖保護ノ実ヲ挙クル計画ナリトテ借区料中ニ包含セシムルコトヲ拒絶セリ

新漁区借区料ニ関シテハ五歩税ヲ徵収スルコトニハ何等変更ナキモ昨年開キタル漁区ニシテ本年初メテ日本人ノ希望スルモノニ対シテハ借区料ヲ一割丈ケ值上シ昨年開カサリシ新漁区（六ヶ所）ニ対シテハ借区料ヲ相當斟酌スヘキ旨言明セリ

（五）ニ関シテハ既ニ普通日本式塩引五割荒巻二割歐州式上等

「ドリヤーノフ」ハ數回ノ交渉ニ依リ既ニ多大ノ讓歩ヲ為セル次第ナルモ更ニ「ウスチ」大北漁区一ヶ所「オホーツク」日露三ヶ所及「アカワ」二ヶ所合計六ヶ所タケヲ國營トシテ存置スルコトニ讓歩セリ查証官問題ニ関シ「アンドリヤーノフ」ハ日本側ニ於テ直接「カラハン」ニ交渉セラレタシ「アンドリヤーノフ」トシテハ日本側ノ希望ニ関シ莫斯科ニ電請方取計フヘキモ其結果ニ関シテハ何トモ言ヒ難シ「アンドリヤーノフ」ノ私見トシテハ「アンドリヤーノフ」ノ莫斯科滯在中ハ日本側ノ希望達成ノ望アリシモ目下ノ状態ハ承知セス日露両国ノ相互關係ノ改善カ漁業問題トカ林業問題ノ解決ニ関連スルモノナリト信シ居ルニ依リ中央政府ヨリハ相當圧迫アリシモ日本漁業者ノ為利益ヲ計リ来レリト云ヘリ

叙上ノ如ク先方ハ我方ノ要望全部ヲ容ルニ至ラサリシニ付我方トシテハ一応政府ニ請訓スルノ要アル旨ヲ述ヘタル处「アンドリヤーノフ」ハ我方請訓ノ結果ヲ俟ツコト能ハサルニ付予定ノ通り四月一日一般漁区及蟹漁区競売ヲ施行スヘキモ若シ日本側カ競売ニ参加セサル時ハ之迄約束シタルコトハ之ヲ取消シ爾今一切ノ交渉ヲ停止スヘシ國營漁区

(付記)

四月一日付在浦潮山口領事ヨリ外務省通商局監理課宛私信競売參加不能トナリタル事情並ビニ競賣当日ノ状況ニ関シ報告ノ件

四月一日競賣參加者ノ言ニ依レハ同日正午ヨリ二時マテ入札ヲ受付ケ二時競賣開始ヲ宣シ直ニ入札ヲ開封シ係員ニ於テ封入金額タケヲ調査シタルノミニテ其ノ結果ヲ競賣參加者ニ対シ何等發表スルコトナク三時一時間ノ休憩ヲ宣シ係員ハ右入札全部ヲ階上ニ運ヒ去リ公衆ハ退出セリ四時再開ヲ宣シ茲ニ入札ノ内容及最低価格ヲ發表シタル由ナルカ入札ノ結果ヲ何等發表スルコトナク之ヲ階上ニ運ヒ去リタル

間ニ何等カノ怪事行ハレタルニアラズヤト推測セラルトノコトナリ

又手形ノ準備ナクテハ交渉ヲ進メ難キ状態ニアリシカハ一向手形發給ニ關スル電報ヲ待チ居タリントコロ漸ク三十日ニ至リ電報アリシニ依リ三十一日先方ト会見ノ上我方要望ヲ述ヘタルモ先方ハ到底我方要望ノ全部ヲ容ルヘクモアラサリシニ依リ手形交付ノ運ニ至ラス請訓ノ已ムナキニ至リ競賣參加不能トナリシハ遺憾ノ至リナリ今後ノ交渉ハ一層不利ナルカト観測セラル

酒匂ヨリ山口田中丸等ヘ

二四四 四月三日 松井外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)
遺憾ナル成行トナリタルガナ才最善ヲ尽サレ
タキ旨要望ノ件

第七三号

深大ノ御辛勞ニ不係僅二十數時間ノ差ニ依リ遂ニ遺憾ナル成行トナリ貴官等ノ立場ハ洵ニ之ヲ諒察スルニ余アリ然レ共日露両国将来ノ為メ微力ヲ傾倒シ惡戰苦闘ヲ切リ抜ケ來レル不肖トシテハ今一段ノ奮闘ヲ試ム可ク而カモ尚健在ナ

二四六 四月五日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

手形ヲ交付シ本年度借区料金額ヲ妥結セル旨

第一四三二号

山口第五一号

貴電第七二号ニ閲シ四月三日當業者代表ヲシテ個人的ニ「アンドリアノフ」ト會見セシメ我方要望容認セラレサリシ為政府ニ請訓ノ必要ヨリ四月一日競売ニ參加スルコト能ハサリシモ今回手形ヲ交付シ得ルニ至リタル所三十一日迄ノ會見ニ於テ包括セル条件ヲ基礎トシテ今後ノ交渉ヲ繼續スルノ意思アルヤラ探ラシメタル所「アンドリアノフ」ハ大体ニ於テ同意ヲ表シ競落漁区ニ付テハ日本側ニ於テ希望ナラハ西「カムサツカ」國營ノ分四ヶ所ハ其讓渡ニ付^(Gos.)已^(?)トノ交渉ニ「アンドリアノフ」ヨリ援助ヲ与フヘキモ個人競落ノ分ニ付テハ直接交渉セラレタキ旨ヲ述ヘタル趣ナルニ付本官トノ公式會見ヲ同日午後七時トナスコトニ打合セ先ツ手形三通ヲ準備セシメ（日付ハ三日トセリ）定期一同ト共ニ「アンドリアノフ」ト會見シ當業者ヨリ右手形ヲ交付シタル所「アンドリアノフ」ハ手形金額ニ對スル利子ニ付協定セムト述タルニ付本官ハ利子ニ付テハ承認シ難キモ別ニ商議スルニ異議ナキ旨答ヘタルニ「アンドリアノフ」ハ此際利子ヲ決定セサレハ交渉ヲ進メ難シト述ヘ我當漁区借区料ヲ減シタル額ニ一割五分ヲ加ヘタル額ヲ本年度借区料ト為スヲ至当トシ即チ本年度租借漁区ノ内本年度経営漁区一九六ヶ所ニ対スル九十二万六千二百二十二留一割五分值上ヶ額十三万八千九百十八留計十万六千五百〇四留（百六十万五千〇四十留?）トナル旨述ヘタル処「アンドリアノフ」ハ昨日ノ通ノ議論ヲ繰返シ右一九六箇所ニ対スル露国側ノ審査ニ依ル借区料約百二十八万留トナルカ若シ日本側カ自説ヲ固持シ交渉ノ進捗ヲ計ラサルニ於テハ全然交渉ヲ停止スルノ外ナシト述ヘ議論沸騰シ一時ハ決裂ノ外ナキカト思ハレタル処我方ハ^(?) stroogyo 的問題ヲ解決セントテ「アンドリアノフ」ニ対シ新漁区二十三ヶ所ニ達スル借区料額ヲ問ヒタル処「アンドリアノフ」ハ三万五千留ナリト答ヘタルニ依リ我方ハ本年度新旧漁区料総額トシテ百十

方ハ「アンドリアノフ」ニ利率ヲ問ヒタル所「アンドリアノフ」ハ一割二分ナリト答ヘタル依テ當業者代表ハ交渉ノ進捗ヲ計ル上ヨリ利子ノ協定ニ応シ六分ナラハ承認セムトノ讓歩スヘシト申出押問答ヲナシタルモ「アンドリアノフ」ハ此上毫モ讓ラサリシニ付我代表ハ已ムナク右利率ヲ承認セリ

本年度借区料ニ閲シ「アンドリアノフ」ハ昨年度邦人租借漁区三百五十五ヶ所ニ對スル借区料ヨリ本年競落漁区十三ヶ所ニ對スル昨年度借区料額ヲ控除シタル金額ニ一割五分ヲ値上ケシタル額即チ百十七万四千五百留ヲ以テ本年度借区料トナシ新漁区借区料ハ此ノ外ナリト述ヘタルニ付我方ハ昨年度借区料ヨリ本年度不經營漁区ニ對スル借区料除シタル額ニ一割五分ヲ加ヘタル額ヲ至当ト認ムヘキ旨極力主張シタルモ「アンドリアノフ」ハ借区料總額ニ重キヲ置キ漁区数ハ余リ問題トナシ居ラサリシニ依リ本年度借区料ハ昨年度借区料總額ヨリ低減スルコトニハ承諾シ難シ若シ日本側カ強テ本年度借区料額トンテ昨年度借区料中ヨリ本年度不經營漁区借区料ヲ控除シタル額ヲ主張スルナラハ

本年度経営各漁区借区料ヲ再審査セサルヘカラストテ毫モ讓歩セントセス互ニ論議ヲ重不タル後「アンドリアノフ」ハ日本側ノ昨年経営漁区中本年経営セントスル漁区数及其借区料額ヲ見タル上妥協点ヲ見出スコトトセント申出テ之ニテ会見ヲ終リ更ニ四日午後六時半ヨリ一同「アンドリアノフ」ト会見シ我方ハ依然昨年度借区料額ヨリ本年度不經營漁区借区料ヲ減シタル額ニ一割五分ヲ加ヘタル額ヲ本年度借区料ト為スヲ至当トシ即チ本年度租借漁区ノ内本年度経営漁区一九六ヶ所ニ対スル九十二万六千二百二十二留一割五分值上ヶ額十三万八千九百十八留計十万六千五百〇四留（百六十万五千〇四十留?）トナル旨述ヘタル処「アンドリアノフ」ハ昨日ノ通ノ議論ヲ繰返シ右一九六箇所ニ対スル露国側ノ審査ニ依ル借区料約百二十八万留トナルカ若シ日本側カ自説ヲ固持シ交渉ノ進捗ヲ計ラサルニ於テハ全然交渉ヲ停止スルノ外ナシト述ヘ議論沸騰シ一時ハ決裂ノ外ナキカト思ハレタル処我方ハ stroogyo 的問題ヲ解決セントテ「アンドリアノフ」ニ対シ新漁区二十三ヶ所ニ達スル借区料額ヲ問ヒタル処「アンドリアノフ」ハ三万五千留ナリト答ヘタルニ依リ我方ハ本年度新旧漁区料総額トシテ百十

四万留ヲ承認セント述ヘ「アンドリアノフ」ハ百二十万留ヲ減スルコト能ハスト唱ヘタルモぞニ我方ヨリ昨年通百十萬留ヲ提供シ茲ニ借区料問題ヲ解決シ西勘察加國營ノ分四箇所ニ付テハ「アンドリアノフ」ト競落価格ニ對シ一割五分ヲ加ヘタル額ニテ讓渡セシムルニ助力スヘキ旨明言セリ尚形式的競売ヲ五月六日施行ノコトニ協定セリ就テハ保證金至急電送方御取計相成タシ

二四七 四月六日 在浦潮渡邊總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

競売執行シタルニツキ報告ノ件

（四月七日接受）

山口第五六号

第一四八号

（四月七日詳報スヘシ）

二四八 四月七日 在浦潮渡邊總領事代理宛（電報）

四月六日競売ヲ執行セリ結果ハ四月七日詳報スヘシ

露国側ノ審査ニ依ル借区料約百二十八万留トナルカ若シ日本側カ自説ヲ固持シ交渉ノ進捗ヲ計ラサルニ於テハ全然交

渉ヲ停止スルノ外ナシト述ヘ議論沸騰シ一時ハ決裂ノ外ナ

キカト思ハレタル処我方ハ stroogyo 的問題ヲ解決セント

テ「アンドリアノフ」ニ対シ新漁区二十三ヶ所ニ達スル借

区料額ヲ問ヒタル処「アンドリアノフ」ハ三万五千留ナリ

ト答ヘタルニ依リ我方ハ本年度新旧漁区料総額トシテ百十

往電第三六号ニ関シ今次ノ漁業案件ノ交渉ハ一般政治問題ヲ離レ専ラ産業上ノ見地ヨリ実際的解決ヲ期シテ之ヲ行ヒタルモノナルニ付右趣旨ヲ明カニスル為メ貴官ハ漁区租借契約ノ締結完了セハ左記(一)及(二)ニ付テハ文書ヲ以テ露国当局ニ通告セラレ(三)(四)及(五)ニ付テハ文書ヲ以テ其ノ諒解取对方御配慮アリタ

(一)本年協定シタル漁区租借契約及其ノ他漁業經營ニ関スル条件等ハ未納金問題解決ニ伴フ事実上ノ便法ニシテ一般漁業ニ関スル調整問題ニ付テハ別ニ之カ商議ヲ為スヘキモノナルコト從テ右条件等ノ為日本側カ旧露国政府トノ

条約ニ依リ獲得セル漁業上ノ権利利益ニ何等変更ヲ來スヘキニアラサルコト

(二)前記契約及条件等ハ将来日露間ニ漁業ニ関スル協約成立ノ上ハ其ノ条項ニ照シ必要ノ調整ヲ施スヘキモノナルコト

(三)大正十四年度以降邦人ノ出願スル漁区ニ付テハ本年ヨリ不利ナラサル条件ヲ以テ之ヲ邦人ニ貸下ケラルヘキコト
四)本年契約漁区ニ付テハ少ナクモ租借期間中之ヲ國營ト為ササルヘキハ當然ノ儀ト認ムルモ為念此点ヲ明ニスルコト

ト

(四)査証官派遣方ニ付テハ飽迄其ノ解決ヲ期シ度キモ漁期ノ関係上其ノ解決ヲ俟ツノ遅ナキニ至ル場合ニハ沿岸敷ヶ所ニ査証事務所ヲ増設スル等露国側ニ於テ機宜ノ措置ヲ講シ以テ實際ノ漁業經營ニ支障ヲ与ヘサル様配慮アリタキ旨此際篤ト申入ノコト

尚貴電第五五号ニ関シ往電第五三号内ハ「ア」ノ書面ニ拘ハラス為念實行シ置カレタシ

二四九 四月十一日 松井外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

露国側ガ在浦潮日本領事ノ資格ヲ認メザル現
在査証ノ取得方法ニ關シ取調方訓令ノ件

第八〇号
山口第十二号(一六)ニ關シ外国人ノ本邦渡航ニ付テハ我法令ニ依リ其旅券ニ在外帝國公館ノ査証ヲ要スルトコロ現

時露国側カ貴地帝國領事ノ資格ヲ認メサル際如何ナル方法ヲ執ラムトスルカ當方ニ於テ本件詮議ノ都合モアルニ付露國當局ニ就キ御取調ノ上回電アリタシ

二五一 四月十四日 松井外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

区料ノ調達出来得ルヤモ測リ難キ見込ニ付右御含置アリタシ
二五〇 四月十二日 松井外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

借区料ハ競落認可後一ヶ月ノ支払期間ヲ得ラ
ルルヨウ交渉方訓令ノ件

第八二号 至急
山口並ニ代表へ左ノ通

代表発組合宛電報ニ依レハ當業者ハ競落認可後五日間ニ本

年借区料上半期分ノ納入ヲ要スル趣ノ処當業者ハ未納金問

題交渉進行中ハ對資本家其他ノ關係上予メ借区料ノ調達ヲ

為ス能ハサリシハ申ス迄モナク右問題解決後ト雖露国側カ

協議ノ上修正ヲ約セル漁獲高制限蟹漁区貸下条件等未タ解

決スルニ至ラス特ニ該制限ノ程度如何ニ由リテハ廢業ノ已

ムナキニ至ル者サヘアリ為ニ今直ニ借区料其他ヲ組合員ニ

割当テ難キ行懸リニ在ルヲ以テ臨機ノ方法ヲ以テ調達セシ

ムル様折角督励シ居ル次付右ノ趣篤ト露國側ニ説明セラレ少ナクモ昨年通り認可後一ヶ月ノ支払期間ヲ与ヘラル

ル様交渉セラルルト共ニ前記懸案ニ付テハ可成當業者希望ヲ容認スル様申入レラレタシ尚十二日係官ヨリ當業者ニ篤

ト説示ヲ為サシメタル結果右期限ヲ俟タストモ案外急速借

第一六六号
山口第六八号

貴電第八二号ニ關シ

代表ニ於テモ急速送金ノ運ニ至ラサルヘキヲ懸念シ二日

「ブレ」ニ會見ノ際目下「チエルウォンツイ」ノ買入ニ苦

心シ居ルモ短時日間ニ必要額ヲ買入ルコト到底不可能ナ

ルニ付少クトモ一ヶ月間ノ支払猶予ヲ与ヘラレタキ旨懇談

シタル處先方ハ之ヲ諒トシ五月一日迄延期スルコトニ承諾

セリ就テハ右ハ本省ノ御含迄ニ止メラレ組合ヘハ適當ニ御通知ヲ請フ

猶代表ハ「チエルウォンツイ」ヲ成ルヘク有利ニ買入ルルコトニ苦心シ日々諸方面ニ奔走シ多少ナリトモ其買入ヲ為シ居ル次第ナルニ付所要額全部ノ調達ヲ俟タス逐次送金ス

ル様組合へ御勧メ相成リタシ

二五二 四月十四日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛(電報)二五三 四月十九日 松井外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理(電報)

査証ニ関シ再度先方ノ好意的考慮ヲ求メルヨ

ウ訓電ノ件

我ガ領事ノ査証ヲ省略シ漁業厅発行ノ證明書

ノミニテ渡航ノ便法ナキヤトノ先方意見ニツ

キ報告ノ件

第一七〇号

(四月十五日接受)

貴電第八〇号ニ閲シ

「ブレ」ニ就キ取調ヘタル處露側ハ昨年通り漁業長官ヨリ漁業監視官吏ニ対シ「本書提示者何某ハ一九二四年ノ漁期間漁業規則履行ヲ監視スル為極東漁業厅ヨリ何々漁区方面へ派遣セラル依テ同人ノ任務遂行上有ラユル援助ヲ同人ニ供与セラレムコトヲ官庁私人団体及其代表者ニ依頼ス」ル旨ノ証明書ヲ発給スル由ノ処「ブレ」ハ右証明書ノミニテ述ヘタリ

帝国領事ノ査証ヲ要セサル様何トカ弁法ヲ講セラレタキ旨

山口第七三号ニ閲シ組合ニ於テ其ノ末段ノ趣旨ニ副ヒタル

表ヲ作成シ十八日発送シタル筈ナリ尚査証官派遣方ニ閲シテハ當方ニ於テモ充分考慮シ居レルモ貴官若ハ代表ヨリモ新外交全權ニ対シ本件要望ヲ申入レラレ同全權ヨリモ「モスコー」ヘ稟請方依頼セラルト共ニ若シ其ノ成ラサルニ於テハ査証事務所ヲ既定ノ九ヶ所ノ外尠ナクモ数ヶ所増設スルノミナラス帆船ニ対シテハ除外規定ヲ設クルニ非レハ折角漁業ニ関スル協定成立ニ拘ハラス邦人ノ一部ハ漁業殆ント不能トナルヘキ次第ヲ申添ヘラレ篤ト先方ノ好意的考慮ヲ求メ置カレタシ

二五四 四月二十三日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

査証ノ方法金額及ビ借区料延納漁獲高制限等

ニ閲スル露國側意向報告ノ件

第一八三号
山口第七八号

二十三日一同「ブレ」ト会見ノ際「ブレ」ハ往電第七七号「ウォロブスコイ」査証事務所増設方ノ件ハ莫斯科ヨリ拒絶シ来レリ「サマルガ」ハ何レ許可セラルコトトナルヘキモ目下手続上ノ面倒アルニ付当分「ソヴィエトスカヤ」湾ニテ査証手続ヲ履マレタク査証官日本派遣ノ件ニ関シテハ莫斯科ヨリ何トモ言ヒ來ラサル旨ヲ述ヘタリ

帆船ニ対スル除外規定設定方ニ付懇談シタル所「ブレ」ハ右ハ査証事務所ニテ普通ノ手続ヲ履ムノ外致方ナシト述タルニ付本官ハ漁場監視官吏ヲシテ便宜之ヲ取扱ハシムルノ途ナキヤト問ヒタル所「ブレ」ハ査証事務所ニ於テハ領事職務ノ一部ヲ行ハシムル義ナル所監視官吏ニハ之ヲ行ハシメ難キ旨答ヘタリ

往電第七五号ニ閲シ「ブレ」ヨリ「チエントロソユース」ニ問合吳レタル所先方ハ「コムビナト」代表者「ブルヴィギン」ト直接相談セラレタシト述ヘ居ル由ニテ「ブルヴィギン」ハ近日来浦スル筈ニ付何レ其節貴電第九〇号御来示ノ件ト共ニ交渉ヲ試ムヘシ

ヲ請フ

二五五 四月二十六日 松平外務次官ヨリ
井上内務次官宛

露国側ヨリ漁業監視官吏派遣ノ際査証ヲ要セ
ザルヨウ依頼越シタルニツキソノ許可方照会

ノ件

通監機密第一二三号

露国漁業監視官吏ノ旅券査証ニ関スル件

露領沿岸ニ於ケル本邦人ノ漁業問題ニ關シ予テ浦潮出張中ナル山口領事及當業者代表ヨリ露国當局ニ交渉中ニ有之候處今般先方ヨリ露国漁業監視官吏カ漁場ヘノ往復ノ途次本邦港湾ニ立寄リタルトキ其ノ上陸ヲ許可セラレタキ旨申出テタルニ付同領事ヲシテ現時露国側カ在浦潮帝國領事官ノ資格ヲ認メス從テ同領事官ヨリ旅券ノ査証ヲ受ケ得サルニ当リ先方ハ如何ナル方法ヲ執ラムトスルヤラ間合サシメタルニ先方ハ漁業庁長官ヨリ漁業監視官吏ニ対シ「本書提示者何某ハ一千九百二十四年ノ漁期間漁業規則履行ヲ監視スル為極東漁業庁ヨリ何々漁区方面へ派遣セラル依テ同人ノ任務遂行上有ユル援助ヲ同人ニ供与セラレムコトヲ官庁私人

山口第一一八号

四日漁業庁長官ト代表トノ間ニ借区契約ノ調印を了セリ尚右契約ノ交渉ニ少ナクトモ一週間ヲ要スル趣

二五七 六月四日 在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

帆船ノ制限撤廃及ビ汽船査証ニツキカラハ
ニ於テモ日本側ノ希望ニ添ウヨウ尽力方言明

ノ件

貴電第三六二号ニ關シ

三日島田ヲシテ「カ」ニ對シ重ネテ申入シメタルニ「カ」

ハ汽船ノ件及ヒ帆船頓数制限撤廃ノ件ニ付是非日本側ノ希望ニ添フ様努力スヘキ旨並ニ追テ何分ノ結果確答スヘキ旨ヲ約シタル由ナリ

（奉天經由 六月四日後三、〇〇）

二五八 六月十八日 在中国太田臨時代理公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

カラハンハ日露交渉ノ現状ソノ他日本側ノ態

六 日ソ漁業問題 二五七 二五八

団体及其ノ代表者ニ依頼スル旨ノ証明書ヲ發給ス可ク而シテ右証明書ニ対シテハ帝國領事官ノ査証ヲ要セサル様何等弁法ヲ講セラレタキ旨ヲ答ヘタル趣ニ候然ルニ右ノ如キ弁法ハ大正七年貴省々令第一号ノ認メサルトコロナルモ現時ノ變態的日露關係ニ於テ前記ノ如ク官民協力交渉ノ結果漸ク産業的見地ヨリ漁業問題ヲ解決シ當業者ノ着業ヲ見ム

トスル實際露国監視官吏ノ為何等便法ヲ講セサルニ于テハ漁業關係上露国側ノ態度ヲ悪化セシメ延テ當業者ノ不利ヲ招致スヘキ虞有之候ニ付此際何等便法ヲ講シ右露國官吏ノ本邦上陸及通過ヲ許可スルコト得策ナルヘント思考致候就テハ在浦潮渡邊總領事代理又ハ目下同地出張中ナル前記山口領事ヨリ紹介状ノ如キ書面（之ニ同領事私印ヲ押捺ス）ヲ發給セシメ右書面及前記漁業庁證明書ヲ所持スル露國官吏ニシテ本邦ニ於テ船待チ又ハ通過ニ要スル最小限度ノ金員ヲ有スル限り其ノ上陸船待チ及通過ヲ許可スル様致度候処右ニ關シ貴見至急承知致度此段及御照会候也

二五六 六月四日 在浦潮渡邊總領事代理ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

借区契約調印ノ旨報告ノ件

度ニ鑑ミコノ上日本側ノ希望ヲ容ルルハ困難
ナル旨語リタルニツキ報告ノ件

（六月十九日接受）

第五二二号

査証官及漁獲制限問題ニ關シ六月十二日、十六日、十八日ノ三回ニ亘リ島田ヲシテ篤ト「カラハ」ニ申入シメタル処「カ」ハ査証官ノ權限ヲ汽船ニ拡張セシムル件ニ就キ浦潮ニ打電シタルハ事實ナルモ元來浦潮莫斯科トモ漁業問題ニ關シテハ強硬論者多數ナリシニ拘ラス自分ノ「チエリン」ニ對スル努力ニ基キ僅ニ査証官派遣問題丈ヶヲ解決シ得タル始末ナレハ日露交渉ノ現状水雷艇事件其他ニ關スル日本側ノ態度等ニ鑑ミ自分トシテハ頗ル困難ナル立場ニ在リテ本件ニ就キ此上日本側ノ希望ヲ容ルル様浦潮及莫斯科ニ申送ルノ勇氣ナシトテ縷々苦衷ヲ述ヘタル趣ニテ島田ハ日露交渉ニシテ成立ノ見込確定スルカ又ハ露国側ノ申出ニ係ル諸案件ニシテ先方ニ好都合ニ解決セラレサル限リ當分我方希望ヲ達スルコト不可能ナリト觀取シタル由ニ付右様御諒承相成リタシ

二五九 十月八日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

漁業行政ハ農業人民委員部ニ移リ漁業全權モ

交替トナリタル旨報告ノ件

第三二八号

山口第一五七号

目下来浦中ノ「アンドリアーノフ」ヨリ極東漁業行政ノ系統ニ関シ聞キタル處ニ拠レハ今回食糧人民委員部ノ廃止ト共ニ漁業行政ハ一時新設ノ内國貿易人民委員部ノ管轄ニ移サレタル處十月一日ヨリ漁業行政ハ農業人民委員部ニ移リ其漁業全權ハ「ピヨートル・チフォフエーウィツチ・モモノーフ」ニシテ國營漁業部ハ最高國民經濟會議ノ管轄ニ移

リ國民經濟會議極東工業事務局（ダリプロム・ビューロ）ノ直営トナリ最高國民經濟會議極東全權ハ「スタルコフ」ナリ依テ「アンドリアーノフ」ハ全ク漁業行政ヲ離レ専ラ外國貿易委員部全權トナレリ猶同氏ハ漁業庁長官ト共ニ來ル十一日「ハバロフスク」ニ赴キ漁業庁ノ「ハバロフスク」移転ハ今月中ニ終了シ当地ニハ西南区漁業監視官残ルノミノ趣ナリ
叙上ノ次第ニテ今後漁業ニ關スル諸問題ノ交渉ニハ其都度「ハバロフスク」ニ赴クカ電信又ハ郵便ニ依ルノ外ナキ状態トナレリ

事項七 第二次奉天・直隸兩派ノ交戦

二六〇 四月二十八日 斎藤朝鮮總督ヨリ

加藤總理大臣宛

奉直兩派ノ關係甚懸念ニ堪ヘサルモノアリ此際眞面目ニ態度安維持ノタメ我方ノ自衛的措置執行ニ関スル

意見具陳ノ件

拝啓御転地ノ効果ノ顯著ナルヘキヲ信シ恐悦申上候陳者支

那奉直ノ關係甚懸念ニ堪ヘサルモノアリ此際眞面目ニ態度

ヲ御定メ相成彼等ノ蠢動ヲ戒メ罷間違ハ東洋平和ノ為メニ

滿州ヲ一時御保管相成候迄ノ決心ヲ御示シアランコト切望

ノ至ニ堪ヘス別紙覚書（ヲ）以テ意見具陳仕候素ヨリ彼等

カ治安ヲ乱リ平和ヲ毒害スルコトノ実現スルニアラサレハ

我兵ヲ動カスノ要ナク毫モ侵略的ノ精神ニアラサルコトハ

申迄モナキコトニ付列國ニ對シテ其誤解ナカラシムル様充

分ニ諒解セシムヘクコレ一日モ早ク御發表相成予防的ニ御

處理ヲ希望スル所以ニ御座候今日ノ儘成行ニ任セ置候ハハ

益々野心家ノ蠢動妄挙ハ其根ヲ深クスルノミナラス彼支那人ノ増長相高シ遂ニハ滿州朝鮮ニ於ケル帝国ノ威信地ニ落

（別紙）

加藤首相 開下

實

（別紙）

覚書

帝國政府ハ東洋平和ヲ維持スル為此際特ニ滿蒙ニ對スル意見ヲ内外ニ宣明セラレタキ事

支那ノ現況ニ鑑ミルニ此際滿州ニ於テ猥リニ軍事行動ヲ取リ治安ノ妨害ヲ為スモノアレハ延テ滿鉄沿線租借地及朝鮮

ノ治安ヲ攪乱スルニ至ルヘキヲ以テ帝國ハ自衛上已ムヲ得

ス兵力ヲ用ヒテ之ヲ鎮压セサルヘカラサルコトヲ内外ニ宣

明シ之ヲ華府會議關係ノ列國ニ通知スルト共ニ一方支那政府ニ對シテハ嚴重ナル警告ヲ發スルニ在リ